

静岡大学 同窓会会報

No. 32

発行所
静岡大学理学同窓会
静岡市駿河区大谷836
静岡大学理学部内
〒422-054-237-1111代
会長 浅野 安人

産業革命と

科学の関わりについて

理学同窓会会長 浅野 安人



18世紀後半では、鉱山の湧水を汲み出すのは、まだ人力によるポンプの操作によるものでした。そこに、ニューコメン蒸気機関が導入されましたが、十分な働きとはいえませんでした。その効率を五倍にし、ピストンの往復運動を回転運動に変えたことが英国の炭鉱技術者ワットの功績で、それを支えた資本家ポルトンや、熱力学の知識を与えた科学者ジョゼフ・ブラックの協力があつての成功が、その後の産業を飛躍的に発展させた原動力です。18世紀末には、米国のロート・フルトンが、フランス革命後のナポレオン戦争に渡り世界初の手動式潜水艦「ノーティラス」を設計して売り込んだり、英国侵略のための兵員輸送用曳き船として蒸気船を試作して売り込んだりしていました。そのいずれも失敗した後、米国に戻ったフルトンはフ

ランスで知り合った駐仏公使だったロバート・R・リビンガストンから支援を受けて、ハドソン川の蒸気船を造り、定期便の運行が始まりました。同じ19世紀の初頭、英国の鉱山で働いていたリチャード・トレビスックによつて、蒸気自動車「パシフィックデビル号」が試作され、その3年後には南ウェールズ地方のパナダレン製鉄所と運河を結ぶ専用貨物線で世界初の蒸気機関車を走らせています。これを改良して現在の蒸気機関車とほぼ同じ構造にし、また軌道の規格を統一して、英国全土に鉄道網を広めたのがジョージ・スチーブソンで「鉄道の父」と呼ばれています。

これらの産業の発展において発明家として活躍しているのは技術者達ですが、経験だけでは解決しがたい困難を克服するために、そこに科学の原理を指導したのが科学者だったのです。昨年、ノーベル生理学医学賞を受賞された、大隅良典先生は受賞後の記者会見で「研究が役に立つという意味が、このところ数年後に企業化できることと同じになつてきている。それが科学をおかしくしている。本当に役に立つことは10年後か20年後、100年後かもしれない。」とおっしゃっています。科学技術の発展を先導するのは、やはり自然の原理や現象を解明する研究です。そこでは、大隅先生のように「誰が一番乗りをしたかを競うより、誰もやらないことをやって新しいことを見つめるほうが楽しい。」という、自然科学の研究を志す皆さんのような存在が大きいといえます。

一方、企業では、どんな規模の業種であれ、一番のところに情報が集まるというのも事実です。情報とは、世の中のニーズです。これに答えて製品を造り出すのが技術の力で、そこには資本の助力が必要となります。技術力を高めるためには研究開発が必須で、5年間研究開発を怠った企業は、同業他社に10年遅れることを覚悟しなければなりません。米国のGMがその良い例です。研究・開発は早いほど良いのですが、製品化には辛抱も必要です。早すぎても遅すぎても世の中の一番になれないという

ことは、皆さんも成功と倒産の幾多の事例をみてお分かりのことと思います。会報30号で述べたように、皆さんも興味深い現象などをいつでも取り出せるようにしておくことをお勧めします。

- 全学同窓会名古屋地区交流会開催……………(1)
- 細胞を支える掃除役 オートファジー……………(5)
- 原子力規制人材育成事業に採択……………(6)



もう一期、理学部長・大学院総合科学技術研究科理学専攻長を務めることになりました。

理学教育の重要性が声高に言われるようになった昨

理学部・理学系大学院への教育支援の寄付のお願い

理学部長・大学院総合科学技術研究科理学専攻長 塩尻 信義

今ですが、同窓生の皆様におかれましては、各分野で活躍のこととおもいます。静岡大学理学部でも、今年の前期入試の競争倍率が20倍を超える状況になっています。しかしながら、文部科学省の基礎研究への配分が少なくなつてきているため、学生実験などに投資できる予算が限られてお

理学同窓会寄付講義

大学院総合科学技術研究科理学専攻の講義のひとつとして、理学同窓会寄付講義が開催されています。この講義は、研究機関や企業・中高校で活躍中の理学同窓会の会員により、企業や研究所、教育現場などで今何をしているのか、働く現場ではどのような人材が望まれているのか、また大学院・学部でどのようなことを学ぶべきかなど、在学中の経験を踏まえおよそ60分から90分講演をしていただきます。後輩のために先輩としての貴重な経験談をしてくださる方を募集しています。学科・経歴・年齢などは問いません。奮つてご応募ください。応募または推薦していただける方は、理学同窓会または担当教員までご連絡ください。

これまで、皆様方から未来創成基金の理学部教育支援の口座にご寄付いただいた浄財が、現在約160万円集まっています。この

お金に対しては、学生の校外活動などに利用する10人乗りの乗用車の購入が計画されています。この購入には、まだ資金が足りません。また、B棟の実験室にある実験台数台の劣化が著しいので、これを何とかしたいと思つています。皆様方の熱心なるご支援をお願いいたします。

平成29年度担当教員
化学科 松本剛昭
静岡大学理学同窓会事務局
scialm@shizuoka.ac.jp
TEL./FAX 054-238-3081
(電話は大容量伝言登録機能付です)

静岡大学理学同窓会からの教育支援の寄付のお願い

静岡大学理学同窓会として、塩尻先生の要性を受けて教育支援に力を入れたいと考えています。寄付金の目標額を1000万円としたく思いますので皆様方の絶大なるご支援をお願いいたします。会報28号(平成25年3月発行)にて会員

静岡大学理学同窓会 総会・科学講演会 および懇親会 開催案内

静岡地区静大祭に合わせ、理学同窓会主催の科学講演会を開催します。皆さんご参加ください。
日時 平成28年11月18日(土) 13時より
会場 理学部A棟2階大会議室(A209)
総会 13:00~13:40
科学講演会 14:00~15:30
詳しくは理学同窓会会報をご覧ください。
懇親会 15:40~17:30
会費1000円
理学同窓会は、各学科・各卒業年度の同窓会開催のお知らせを理学部内の同窓会の頁に掲載する等のお知らせいたします。

静岡大学理学同窓会 名古屋地区交流会 開催案内
名古屋支部を設立したいと思います。東海地区の皆さんぜひご参加ください。
理学同窓会名古屋支部設立総会
●場所 名古屋国際会議場
●日付 7月15日(土)14:00 4号館433号室
□オープニングコンサート 15:10
3号館 レセプションホール
Violin 加納詠子 Harp 斉藤充子
□来賓挨拶 15:40
□講演会 小和田西夫先生「信長・秀吉・家康と井伊家の人々」 16:00
□懇親会 18:00 4号館 白鳥ホール
来賓挨拶 軽音楽演奏豊田ご当地アイドル ピンコゲームなど
参加希望者は静岡大学理学同窓会事務局までご連絡ください。会費納入用の振込用紙をお送りします。e-mail: scialm@shizuoka.ac.jp FAX. 054-238-3081
会場までのアクセス 地下鉄名古屋線日比野駅下車 東へ5分 地下鉄名城線(左回り)西高蔵寺駅下車 西へ徒歩5分

静岡大学理学同窓会 総会・科学講演会 および懇親会 開催案内
静岡地区静大祭に合わせ、理学同窓会主催の科学講演会を開催します。皆さんご参加ください。
日時 平成28年11月18日(土) 13時より
会場 理学部A棟2階大会議室(A209)
総会 13:00~13:40
科学講演会 14:00~15:30
詳しくは理学同窓会会報をご覧ください。
懇親会 15:40~17:30
会費1000円
理学同窓会は、各学科・各卒業年度の同窓会開催のお知らせを理学部内の同窓会の頁に掲載する等のお知らせいたします。

手伝いをします。左記の同窓会事務局までご連絡ください。
静岡大学理学同窓会事務局
e-mail: scialm@shizuoka.ac.jp
http://www.shizuoka.ac.jp/alumni/index.html
=お知らせ 卒業生の皆様へ=
平成20年度の卒業・修了祝賀会から、同窓会の支援により写真を撮影していますが、そのDVD版を書くが塚野事務室に配布してあります。静岡大学理学部から立ち寄った際に、そこで必要なデータを入手してください。
静岡大学理学同窓会 東京支部総会懇親会 開催案内
詳しくは理学同窓会会報をご覧ください。
支部会員には別途ご連絡いたします。

退任教員

皆さんが学ばれた静岡大
理学部には16年お世話にな
り、この春退職をします。
16年はあつという間でし
た。そして大学自体が大き
く様変わりした16年でもあ
りました。「公務員数の削
減」というその一言で国立
大学が一斉に法人化された
のは平成16年の4月。それ
から13年、6年一区切りの
2期がすでに終わりました。
ようやく明るみに出た

静大理学部は生き残れるか？ 一衣を変えるのではなく

学術院理学領域
地球環境微生物学教授 加藤 憲 二

国立大学法人化の裏で進行
した文科省から私学などへ
の天下りが昨今取りざたさ
れてもいますが、さらに
由々しいことに我が国から
の学術論文の発信力が、中
国の台頭もありますが法人
化以降世界の中で明らかに
低下しています。この10年
あまりで世界のMIF（医
学、工学、理学領域）分野
における日本の発信力は数
の上で3割以上の減衰。こ
のような大学を取り巻く環
境にあって地方国立大学の
置かれた状況の厳しさはひ
としおです。ご存じの通

り、静岡大学においても教
育学部のいわゆるゼ口面課
程と人文学部の入学定員が
ばつさり削られました
（理学部ではそのうちの20
名分を資源に新たに教育の
国際化などを強調した創造
理学コースを今年度立ち上
げました）。必要度が低く
なったものは淘汰される、
ということと併せて国や地
域の経済をにらんで大学の
あり方が論じられ、その方
向を定められています。小
さな私学から早く淘汰され
るという単純な図式ではな
く、地方経済にとつて重要
度が高いと判断された私学
は公立化に向かい始めまし
た。地方国立大の人文系の
定員削減もこれと無関係で
はないでしょう。

さて理学部。誠に残念な
ことに、ただでさえ削減し
続ける国立大学法人への中
で配分を「どのよう」に大
学改革を進めたかが見
えることを一つの評価基準
に傾斜配分されるようにな
ったため、勢いこの大学で
も簡単に手がつけられる
（組織改革）へと進んでし
まいました。法人執行部の
考えは、教育プログラムの
改革で達成できるものと
、評議会などで申し上げ
たのですが。大学院修士
課程の理学研究科は平成2
7年度をもって消滅。総合
科学技術研究科の一専攻と
なりました。平行するかと
ちで静岡大学では予算の減
少や多方面での予算支出が
求められるようになった中
で教員の有効な活用を目指
して、教員の所属組織（学
術院）と教育組織（学部）
が分離されています。であ
ればこそ、教育組織を簡
単にスクラップビルドする

必要は、実はないと考えら
れます。だからと言って理
学部が変わらなくて良いと
は全く思えません。例えば
コミュニケーションの電子
化が社会を大きく変えてい
る中で、来年、2018年
には我が国の18歳人口が1
20万人を切り、減少の一
途をたどります。
理学教育の国際化が理学
部が変わっていく方向の一
つの柱だと考え、塩尻学部
長と創造理学コースの準備
を進めました。もう一つ、
広く科学分野を俯瞰して科
学と地域でも良いのですが
（静岡大学は地域に貢献す
る大学と位置付けられまし
た）、科学と社会の有り様
を考える人材の育成、これ
が真に求められているよう
に思います。OB、OG諸氏に
は関心を持って静大理学部
を見つけていただければと
思います。

一つだけ確
実に言えるこ
とは、「4月
以降に突
然私に会いに
来て、理学
部に私はいま
せん」
という事だけ
です。退くも
のがいれ、新
しく来る者も
いる、とい
う、ごく当た
り前の新陳代
謝、世代交代
がここでも起
こっている、
という事で
はじめての（？）退職に
当たって、特別な感傷は今
はありません。ただただ大
量にため込んだ世界各地の
岩石（プラスチックコンテ
ナが700個）を始末する
のが大変だったり、中途半
端になってしまった研究関
連データやディスク類（中
には5インチの2DDディ
スクもある）の処理に困惑
したりしており、ああ、メ
ンドクサイ、というのがこ
の原稿を書いている時の気
持ちです。
4月以降、どうも暮ら
しをするのかわかりません
が、時間の制約が大幅にな
くなり自由時間が増える事
になります。やり残した研
究の続きを細々（太々か
も）と続けたり、これまで
出来なかつたこと（例えば
温泉旅行とか）も大いにや
りたいと思っております。
それもこれも健康というハ
ードルを越えなければなり
ません。私からみなさんへ
の最後のメッセージは「健
康ファースト」だよ。



新任教員

創造理学コース
数理論理学
Diego Mejia
(デイエゴ・メヒア)



コロンビア出身
コロンビアで2年間非常
勤講師としてアンティオキ
ア大学数学科に所属してか
ら、2010年4月に博士
課程を取得するために神戸
大学に入学しました。日本
に来る1年前、神戸大学の
ブレンドレ先生の講義に
アへ短期コースの講義に
来ていただきまして。コース
の内容（強制法理論）が大
学生頃から大好きなテー
マだったので、ブレンドレ先
生からそのテーマを指導し
ていただくために日本の文

部科学省奨学金留学生を申
請しました。その奨学金を
いただいたおかげで神戸大
学で1年間研究生として所
属し後に、システム情報科
学研究科情報化学専攻に合
格、2014年3月に博士
号（学術）を取得しまし
た。
神戸大学を卒業してか
ら、2年間ウィーン大学と
ウィーン技術大学で博士研
究員として勤めました。そ
の後日本へ帰って、201
6年3月から創造理学コー
スに所属、数学担当の講師
としてお世話になっていま
す。
専門は数理論理学で、独
立性証明に関する技術及び
連続体上の組合せ論への応
用を主に研究しています。
特に、その技術の中で強制
法理論が興味深いです。少
し優しくいえば、数学の中
で「ある実数全体に関する
命題が無矛盾なのに証明で
きない」部分を確定する研
究のテーマです。測度理論
やベールの範疇などに深く
関連しています。
趣味は映画鑑賞、音楽鑑
賞、エレキギターとベース
を弾くことです。

2016年は創造理学コ
ースの最初の年でしたが、
現時点で所属している学生
さんがとても積極的に活躍
しているのが印象的でした。
創造理学コースの他の先生
と一緒に担当した演習で
は、英語での発表やレポー
ト作成、また研究機関への
見学という一年生としての
特別な活動を通して、学生
達は国際的な視野を広げ、
高い学習能力を示している
と思います。これから実施
される新たな活動（香港技
術大学への留学など）にお
いても、学生達の更なる成
長を楽しみにしています。
昨年、この新しい仕事で日
本語に関しても様々なチャ
レンジがありました。理
学部の方からまた職員の方
の協力のもと、乗り越える
ことができました。力を貸
していただきとても感謝し
ています。これからも皆さ
んと協力しつつ、創造理学
コースの発展に貢献してい
きたいと思っています。



創造理学コース
准教授・生物担当
日下部 誠

2016年3月1日付で
静岡大学創造理学コースの
生物担当教員に赴任しまし
た。気が付くと静岡に来て
からもう一年が経ちまし
た。この一年はすべてが新
しいことばかりで、静岡に
来る前の一年より少し長
く感じる一年だったように
思います。静岡大学に赴任
する前は千葉県柏市にある
東京大学大気海洋研究所の
生理学分野に所属していま
した。大気海洋研究所では
魚類生理学の研究、特にサ
ケやイトヨの浸透圧調節の
メカニズムを探る研究を行
っていました。静岡大学に
移ってからも魚の浸透圧調
節について継続して研究し
ています。今、静岡で手に
入る静岡特有の面白い魚を
探しているところです。今
後は、浸透圧調節だけでは
なく、魚の様々な生理現象
にも目を向け、魚類生理学
を統合的に理解する研究を
進めたいと思っています。
ヒトを含めた哺乳類と魚類
のある生命現象を機能的な
側面から比較することによ
って、その生命現象がどの
ような進化の遂げてきたの
かを明らかにする視点で研
究を続けたいと思っていま
す。
2016年4月からスタ
ートした創造理学コースは
20名の新入生を迎え、順調
（？）にスタートを切りま
した。新しいコースという
こともあり、すべてが手探
りの状態です。一つのこと
が終わった後に、いつも創
造理学コース担当教員が集
まって「反省会」を開く日
が続いています。それでも、
やる気のある優秀な学
生さんに恵まれ、理学部の
先生方にも全面的に協力し
ていただき、なんとか二年
目終えることが出来まし
た。ありがとうございまし
た！様々な紆余曲折を経
ながらも、学生さんたちが
「楽しい」「充実してい
る」と言ってくれるのは本
当にうれしく思います。2
016年の新入生が卒業す
るまでは新しいことに繰り
返しになるとは思いますが、
ベストを尽くして優秀
な学生さんを社会に送り出
せるコースを作り上げてい
きたいと思っています。
「国際化」「グローバル化
」という言葉は聞くことが
多くなりましたが、「国際
化」「グローバル化」が本
当に意味することは何なの
かを先生方、学生さんと共
に考え、意見の交換をしな
がら、創造理学コースの立
ち上げに努力していきたい
と思っております。今後と
もよろしくお願ひ致しま
す。

化学科



松本剛昭

平成28年度理学同窓会連絡員を仰せつかりました、化学科准教授の松本剛昭と申します。この度はこちらの貴重な紙面を使わせていただき、小生が主宰しております研究室の紹介をさせていただきます。

当研究室は平成26年8月に開設され、半年強の立ち上げ期間を経た平成27年4月に第1期生となる学部4年生3名が配属されました。現在は新たに配属された第2期生の4年生2名と、大学院修士課程に進学した1期生1名を合わせた合計4名で日夜研究に励んでおります。

化学科には研究分野ごとに有機化学、無機化学、生物化学、物理化学の4グループに分類されており、当研究室は物理化学に属しております。研究テーマは「超高度赤外吸収分光法による極低温分子クラスターの水素結合構造の解明」です。簡単に申し上げますと、「たった数個の分子が集合して出来上がった微粒子を対象にして、これにレーザー光線を照射することで微粒子の集合形態を知る」というものです。なぜこのような研究をしているのか？それは、マクロとミクロでは物質の性質が全く同じであるのか、あるいは大きく異なるのかというところを、分子の集合の仕方から明らかにしたいという好奇心があるからです。例えば、水の融点は摂氏0℃ですが、数百個だけの水分子が集合してできた微粒子の融点が一体何℃なのか、実は誰も知りません。もしこれらの融点が大きく異なるようであれば、それだけで興味深い基礎的知見であると同時に、分子数の違いを利用して化学反応を自由自在にコントロールできるという応用的な可能性も出てきます。物質の性質はそれ

研究室紹介 各学科活動報告

もつ構造と密接な関係があるもので、私たちはそこに注目してミクロな微粒子のもつユニークな性質を明らかにしたいと考えています。研究活動からピックアップすると、7月29日に第19回日本光生物学協会年會において成川礼講師が第3回日本光生物学協会奨励賞を受賞しました。受賞対象研究は「シアノバクテリアの新規光受容体群・シアノバクテリオクロムの解析とその応用利用」です。また、11月17日に第22回国際動物会議・第87回日本動物学会合同大会において、岡田令子講師らの論文「Molecular cloning of cDNA encoding an aquaglyceroporin, AQP-h9, in the Japanese tree frog, Hyla japonica: possible roles of aqp-h9 in freeze tolerance」がZoological Science Award (論文賞)を受賞しました。



岡田令子

最後に、理学同窓会が長くご繁栄されることを願って、研究室の紹介を終えさせていただきます。今後ともよろしくご願ひ申し上げます。

生物科学科

2016年3月には学部40名、修士課程14名、博士課程2名が卒業・修了し、それぞれの道へと旅立ちました。学部卒業生はおよそ4割が静岡大学大学院総合科学技術研究科へ内部進学

地球科学科



三井雄太

2016年度の理学部地球科学科(学科長・道林克禎)は、昨年に引き続き、教員15名での教育・研究体制となった。うち、池田昌之教員は、1年を通して、学振海外特別研究員としてアメリカのコロンビア大学ラモントドレーヤー地球研究所に滞在している。道林克禎は、12月初旬から2月の中旬にかけて、国際深海科学掘削計画(IODP)第366次研究航海に参加している。道林克禎教員の不在期間は、北村晃寿副学科長が学科長代理を務めている。その他、学部生の指導委託先として、防災総合センターの原田賢治教員が教育体制に加わっている。さらに、今年度から理学部に新設された創造理学コースの担当教員として、昨年度3月に赴任したDmitry G. G. 教員が、大学院総合科学技術研究科・地球科学コースの教育体制に(16人目として)加わっている。

2016年度の卒業生と現・旧教職員およそ40名が集まり交流を深めました。次回以降も多くの皆様のご参加をお待ちしています。連絡先や勤務先などが変更になった場合には、どうぞお知らせください。生物科学科ウェブサイト <http://www.sci.shizuoka.ac.jp/dio/new/BIOP/> Twitter (@SU_Biological) もご覧ください。

生として46名、大学院修士課程の新生として9名を迎えた。今年度にも本学科であつた主な出来事を、学科のWebページから抜粋して、以下、時系列順に記載する。

4月1日、道林克禎教員が第3期静岡大学研究フェローに選ばれた。また、木村浩之教員が第3期静岡大学若手重点研究者に選ばれた。

4月28日には、北村晃寿教員の研究成果「静岡県内の4000年間の地質記録には最大クラス(レベル2)の津波の痕跡は見つからない」が本学からプレスリリースされた。5月25日には、三井雄太教員が日本地震学会若手学術奨励賞を受賞した。8月9日には、創造科学技術大学院所属の松村太郎次郎君が、日本地球惑星科学連合2016年大会にて学術優秀発表賞を受賞した。8月26日には、平内健一教員らの研究成果「地球のプレートは海の存在によって弱くなる」が本学からプレスリリースされた。9月15日付で、2017年度4月1日着任(予定)の教員公募(助教1名)が行われ、現在、選考が進んでいる段階にある。

合同役員会議事録

日時：平成28年11月19日(土) 12時20分～13時00分 場所：静岡大学理学部A棟2階大会議室 出席者：浅野会長他10名 議案1 会計報告・事業報告/会計予算案・事業計画 別紙参照 議案2 会則の改定について 会則第14条(会費・寄附)に下記の項目を追加する。 3. アジアブリッジプログラム(ABJ)の学生については、会費の納入義務を卒業または修了まで留保し、留学生在が日本国内の企業に就職した時点で納入するものとする。 議案3 役員改選 会長・副会長で次期役員候補者がいないものは、次期役員候補が立候補するまでの間、引き続き現職にとどまるものとする。 議案4 名古屋支部の設立について 2017年7月15日(土)の静岡大学全学同窓会名古屋地区交流会の開催に合わせ、名古屋支部の設立を図ることとする。役員候補者は未定。 議案5 支部および各学科の同窓会に対する通信費等の支援について 現在、東京支部に運営費の補助を出しているが、数学科および地球科学科で同窓会の再開の動きが出ている。これらの各学科の同窓会を理学同窓会の支部としてその活動の助成をすることとしたい。各学科の支部としての活動の支援については、メール便による通信の支援と問い合わせ等の連絡を受ける場合の窓口を理学部同窓会事務局とする。これを基本に考えたい。 議案6 静岡大学全学同窓会について 従来の全学同窓会は、実質活動が皆無であったので、いったんこれを解散し、新たに大学関係者約10名と各同窓会代表10名からなるコンパクトな組織で、再開を図ることとなった。 主な活動は、各地区の交流会の支援と大学と各同窓会のコミュニケーションの促進である。ご理解と協力を願いたい。 2017年7月15日(土)の静岡大学全学同窓会名古屋地区交流会の開催に合わせ、名古屋支部の設立を図ることとする。役員候補者は未定。 議案5 支部および各学科の同窓会に対する通信費等の支援について 現在、東京支部に運営費の補助を出しているが、数学科および地球科学科で同窓会の再開の動きが出ている。これらの各学科の同窓会を理学同窓会の支部としてその活動の助成をすることとする。各学科の支部としての活動の支援については、メール便による通信の支援と一般的問い合わせ等の連絡を受ける場合の窓口を理学部同窓会事務局とする。これを基本に考える。 各支部は静岡理学部「同窓会」のコーナーを積極的に活用すること。 議案6 静岡大学全学同窓会について 従来の全学同窓会は、実質活動が皆無であったので、いったんこれを解散し、新たに大学関係者約10名と各同窓会代表10名からなるコンパクトな組織で、再開を図ることとなった。 主な活動は、各地区の交流会の支援と大学と各同窓会のコミュニケーションの促進である。ご理解と協力を願いたい。 以上の各項目について、出席者からの合意が得られた。

理学同窓会会議事録

日時：平成28年11月19日(土) 13時00分～13時45分 場所：静岡大学理学部A棟2階大会議室 出席者：浅野会長他20名 議案1 会計報告・事業報告/会計予算案・事業計画 別紙参照 議案2 会則の改定について 会則第14条(会費・寄附)に下記の項目を追加する。 3. アジアブリッジプログラム(ABJ)の学生については、会費の納入義務を卒業または修了まで留保し、留学生在が日本国内の企業に就職した時点で納入するものとする。 議案3 役員改選 会長・浅野安人(物)留任、副会長：赤星順一(化)留任、平松晴二(生)留任、鈴木富喜(数)新任、佐伯泰広(地)新任 理事：高塚芳弘(化)留任、和田秀樹(地)留任、金子正純(生)留任、梅田勇夫(化)留任、横沢幸仁(生)留任、土屋大次郎(数)留任、青島修(数)留任、竹下昭二(物)留任、杉本寿久(化)留任、原川恵次(生)留任、三

重野哲(物)留任、清水幸洋(数)新任、加藤和男(地)新任、 監事：野口和廣(物)留任、松山初男(物)留任、 議案4 名古屋支部の設立について 2017年7月15日(土)の静岡大学全学同窓会名古屋地区交流会の開催に合わせ、名古屋支部の設立を図ることとする。役員候補者は未定。 議案5 支部および各学科の同窓会に対する通信費等の支援について 現在、東京支部に運営費の補助を出しているが、数学科および地球科学科で同窓会の再開の動きが出ている。これらの各学科の同窓会を理学同窓会の支部としてその活動の助成をすることとする。各学科の支部としての活動の支援については、メール便による通信の支援と一般的問い合わせ等の連絡を受ける場合の窓口を理学部同窓会事務局とする。これを基本に考える。 各支部は静岡理学部「同窓会」のコーナーを積極的に活用すること。 議案6 静岡大学全学同窓会について 従来の全学同窓会は、実質活動が皆無であったので、いったんこれを解散し、新たに大学関係者約10名と各同窓会代表10名からなるコンパクトな組織で、再開を図ることとなった。 主な活動は、各地区の交流会の支援と大学と各同窓会のコミュニケーションの促進である。ご理解と協力を願いたい。 以上の各項目について、出席者からの合意が得られた。

2016 Science Cafe in Shizuoka
サイエンスカフェ in 静岡 申込不要 参加無料

場所/B-nest 静岡市産学交流センター
静岡市葵区御幸町3-241 ベカート6階カネオカホールA
http://www.b-nest.jp/default.html
時間/18:00~19:30 (開場 17:00)

定員150名 (先着順)
※ 抽選もいたします。
※ 抽選もいたします。

サイエンスの最新情報をわかりやすくお話しします。コーヒーとお菓子をご用意しております。お気軽にお越しください。

主催：静岡大学理学部 <お問い合わせ>
協力：静岡市 ☎ 054-238-4794 〒422-8529 静岡市駿河区大倉836 静岡大学地球科学部 増田俊明

3月24日	プレート境界地震の発生メカニズム 2011年東北地震後の進展 理学部地球科学科 三井 雄大
4月28日	「物質」=「力」=「空間」!? 超弦理論の予言する世界 理学部地球科学科 森田 健
5月26日	光合成生物の巧みな生存戦略 —光を見て光を食べる— 理学部地球科学科 成川 礼
6月30日	マイナス270℃で気体としてふるまう物質 理学部地球科学科 松本 剛昭
7月28日	作用素半群 —高校数学をもとに情報理論を一般化しよう— 理学部地球科学科 田中 直樹

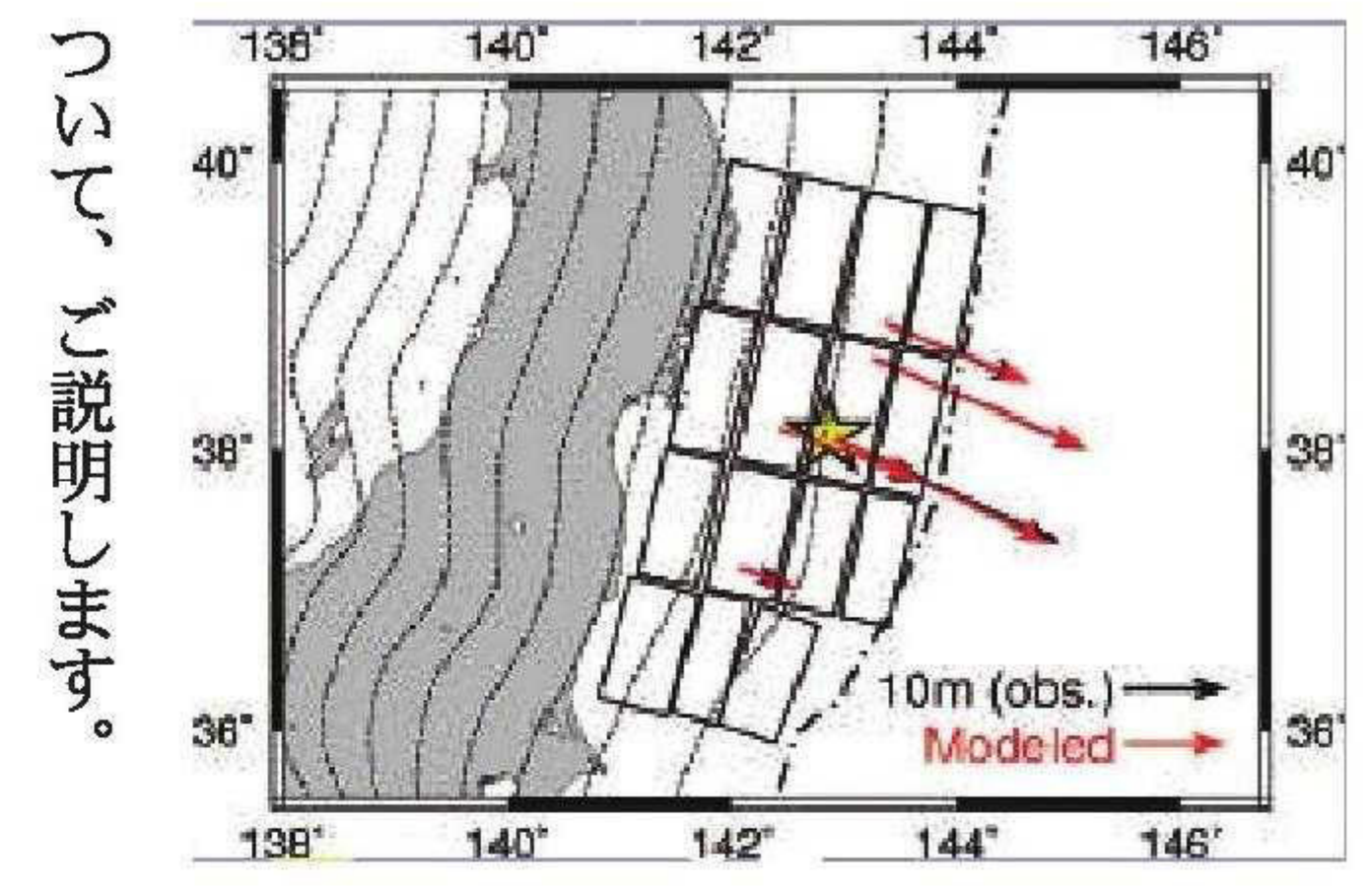
第22シーズン

■平成28年3月24日(木)
18:00~19:30

【第104話】
「プレート境界地震の発生メカニズム—2011年東北地震後の進展—」
三井雄太 (静岡大学理学部地球科学科)



大地震の多くはプレートの沈み込み境界で起きています。2011年東北地震後、この種の地震が発生する物理過程の研究に、いくつかの進展が見られました。特に「断層内流体「ゆっくり変形」の果たす役割に



ついで、ご説明します。

■平成28年4月28日(木)
18:00~19:30

【第105話】
「物」「力」「空間」! 超弦理論の予言する世界
森田 健 (静岡大学理学部地球科学科)



植物や藻類は光をエネルギーとして生きている

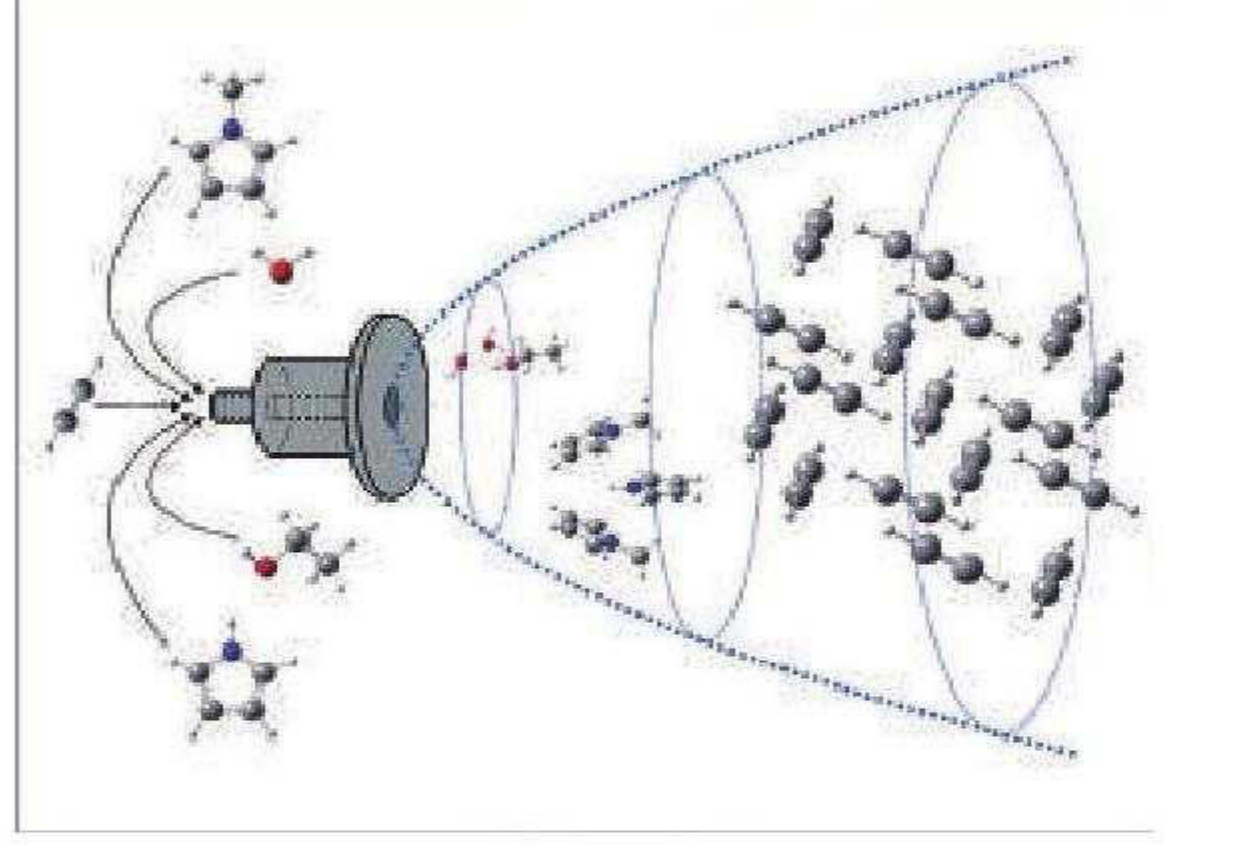


成川 礼 (静岡大学理学部生物科学科)

【第106話】
「光合成生物の巧みな生存戦略—光を見て光を食べる—」

2016 Science Cafe in Shizuoka
サイエンスカフェ in 静岡

■平成28年5月26日(木)
18:00~19:30



一般的に、物質温度を下げ続けられれば固体となりま



松本剛昭 (静岡大学理学部化学科)

【第107話】
「マイナス270℃で気体としてふるまう物質」

■平成28年6月30日(木)
18:00~19:30

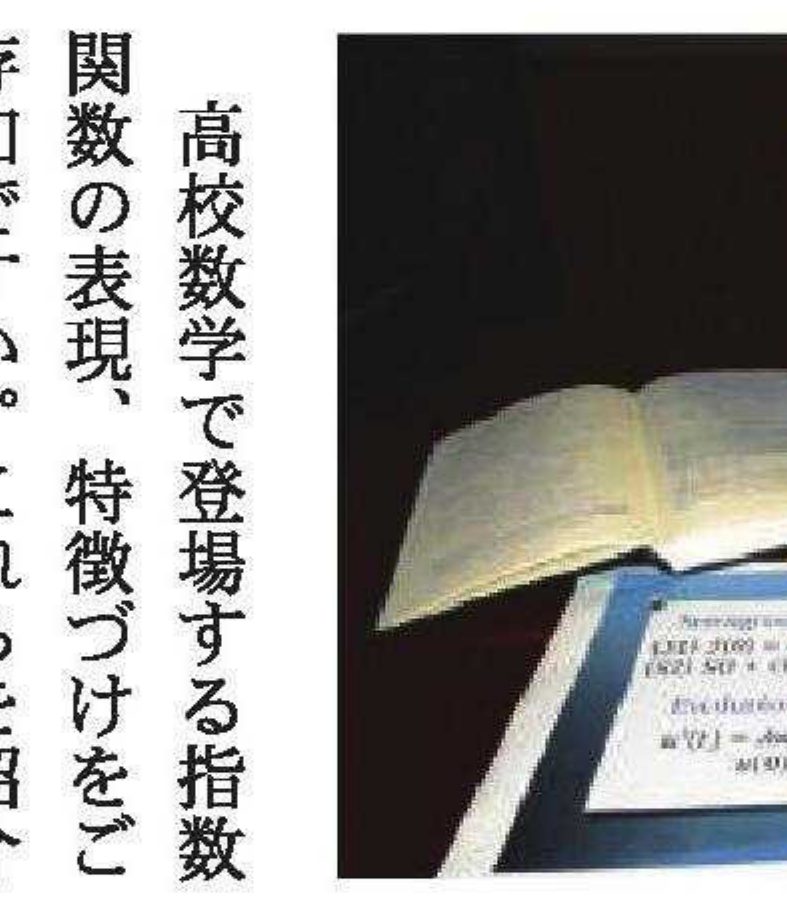
【第108話】
「作用素半群—高校数学をもとに指数関数を一般化しよう—」

田中直樹 (静岡大学理学部数学科)



第23シーズン
■平成28年9月29日(木)
18:00~19:30

【第109話】
「宇宙は99.99%プラズマでできている! (その中で、人間はどうして生きられるのか)」



松本剛昭 (静岡大学理学部化学科)

【第110話】
「情報熱力学入門」

■平成28年10月27日(木)
18:00~19:30

【第111話】
「分子を作ろう!—クラスター分子が魅せる多様な機能—」

加藤知香 (静岡大学理学部化学科)

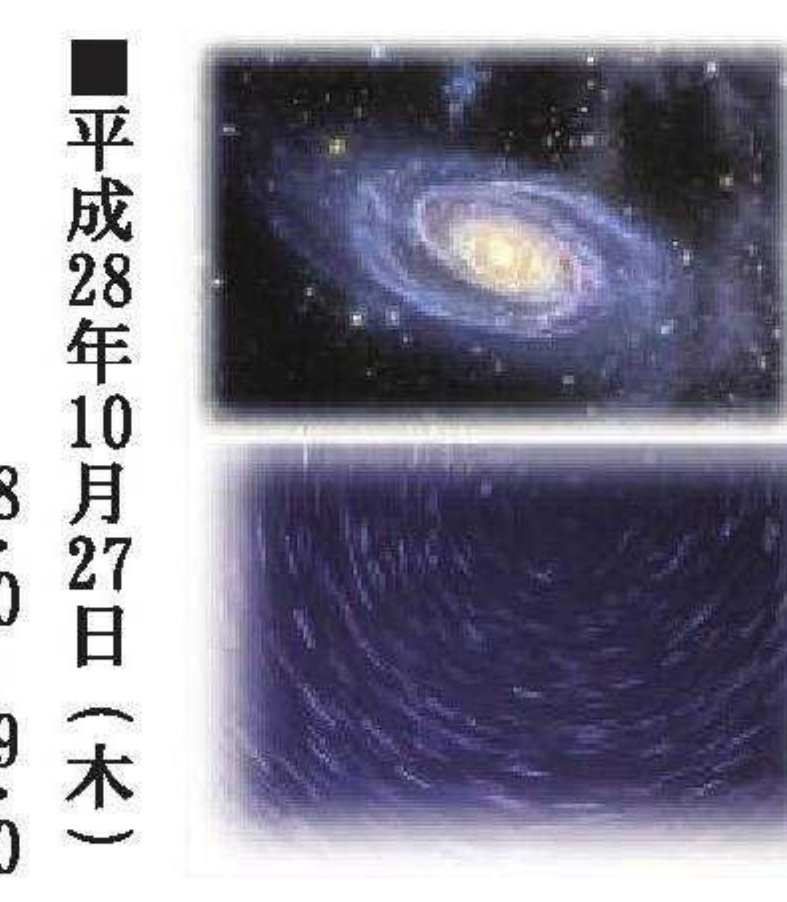
使えば、マイナス270℃の超低温でも気体である物質を簡単に作れます。そんな不思議な物質のユニークな性質を、「幾何構造」に基づいて紹介します。

19世紀にMaxwellは「低温側から高温側へ熱が移動する」という現象を起こす



弓削達朗 (静岡大学理学部物理科学科)

【第112話】
「カエルの生きる力」



加藤知香 (静岡大学理学部化学科)

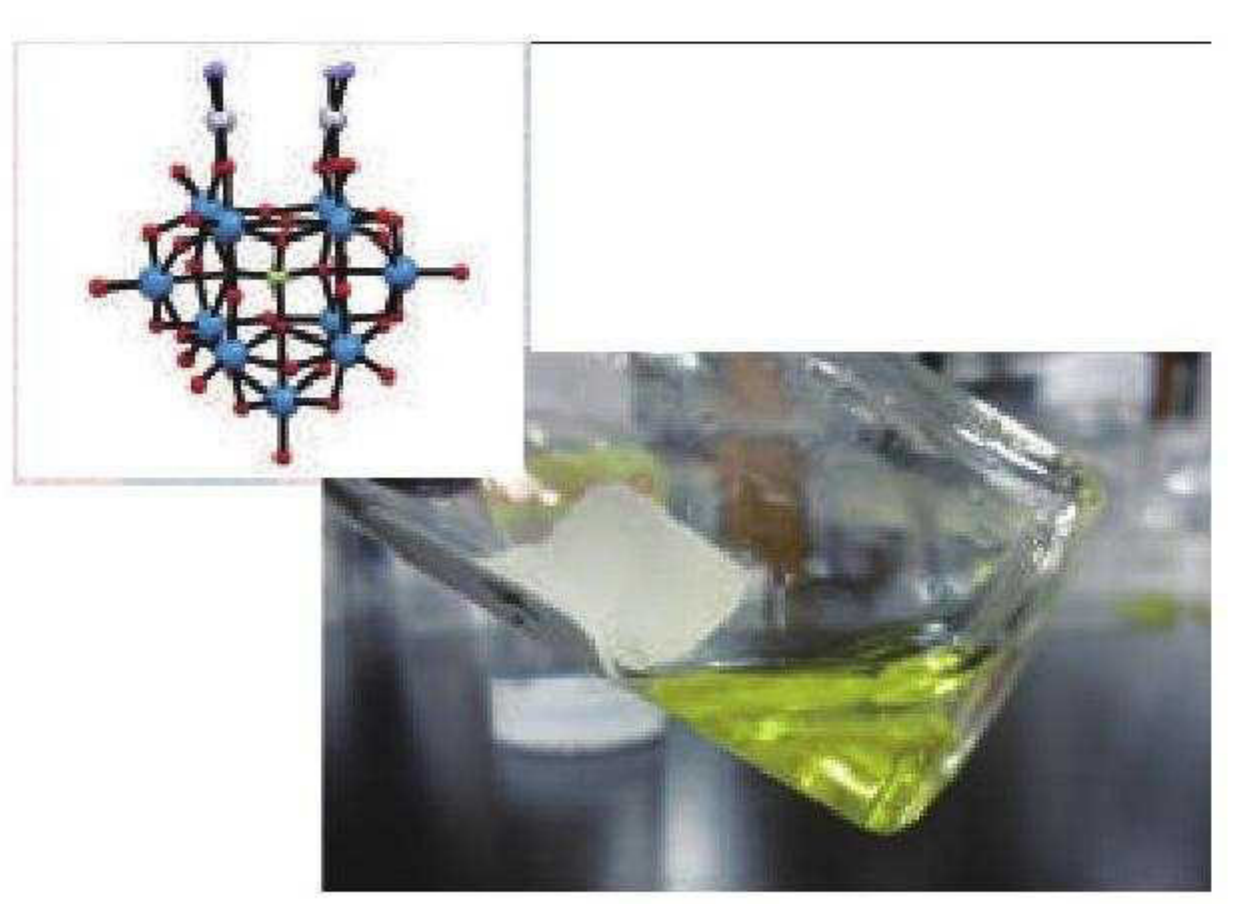
【第113話】
「なぜ地球は「地球」となったか?」

■平成28年11月24日(木)
18:00~19:30

【第114話】
「カエルの生きる力」

岡田令子 (静岡大学理学部生物科学科)

悪魔を思考実験において考えました。これは物理法則に反するように見えるため、悪魔のパラドックスとして長いこと議論されてきました。本講義では、このパラドックスの現代的な解決とそれに伴い進展した情報熱力学についてご紹介します。



私達が生きているこの世界は、多種多様な分子で溢れています。既に存在している分子でも、その構造を少し変えるだけで、もとの分子には見られない新たな



加藤知香 (静岡大学理学部化学科)

【第115話】
「カエルの生きる力」

■平成28年12月22日(木)
18:00~19:30

【第116話】
「カエルの生きる力」

岡田令子 (静岡大学理学部生物科学科)

地球上に誕生してから3億年以上、両生類は世界中の様々な場所で生息しています。乾燥や温度変化に弱いと思われる両生類がどのような仕組みで生き延びているのかについて、カエルの変態や環境適応機構の観点から紹介します。どうして両生類の研究が大切かというお話も。



岡田令子 (静岡大学理学部生物科学科)



岡田令子 (静岡大学理学部生物科学科)

【第117話】
「カエルの生きる力」

■平成28年12月22日(木)
18:00~19:30

【第118話】
「カエルの生きる力」

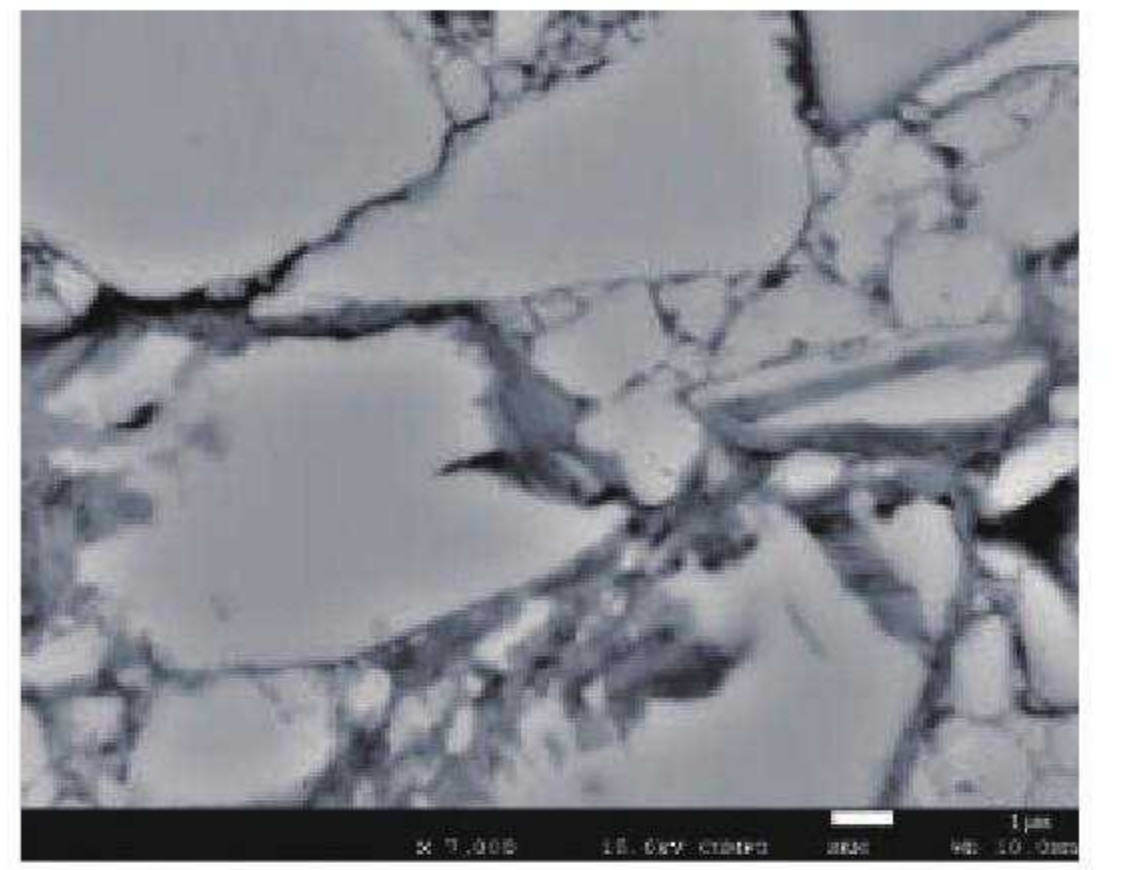
岡田令子 (静岡大学理学部生物科学科)

物性や機能が現れます。分子を作ること、そして、そこから生まれる新たな機能についてご紹介します。

平内健一 (静岡大学理学部地球科学科)



地球は太陽系の中で唯一プレートテクトニクスが働いている惑星です。その理由の一つとして、地球表面における「海」の存在が挙げ



られます。本講演では、岩石と水の相互作用についてプレート運動が起こるメカニズムについて、ご紹介いたします。

細胞を支える掃除役 オートファジー

此細でつまらないと思われていた細胞内のシステムが、実はきわめて重要だった—そんなことが生物学には往々にしてある。ギリシア語で「自食」を意味する「オートファジー」と呼ばれる細胞の掃除システムも、以前は軽視されていた。しかし今になって突如、科学的に大きな注目を集めている。

オートファジーは少なくとも1960年代までには見つかっており、ロックフェラー大学のド・デュエブ(Christian de Duve)をはじめとする研究者たちは電子顕微鏡を使って研究を進めていた。今から約20年前、著者の一人であるクリオンスキーや大隅良典教授のグループ等、いくつかの研究チームが酵母を使ってオートファジーの分子生物学的な研究を始めた。酵母は高等動物よりもはるかに単純な生物で解析しやすいからだ。この戦略は功を奏し、それまではつきりしなかったオートファジーの制御にかかわ

る分子が次々と明らかにされた。真核細胞には核の外側に細胞質があり、それを細胞骨格が支えている。細胞質はゼリーのようにどろどろしており、その中には高分子の集合体や巨大分子、細胞小器官と呼ばれる特定の機能を持った構造体が漂っている。細胞質の働きはコンピュータのように複雑なので、自分がつくり出したゴミによって動きが悪くなってしまう。オートファジーの役割の一つはこうした古いたんぱく質などの細胞質に溜まった不要物を分解し取り除くことである。

膜」と呼ぶ。ファゴソームは伸張しながら一部が開いた袋状になり、周囲の細胞質を無作為に取り込む。やがてファゴソームの穴は塞がり「ファゴソーム」と呼ばれる球体となる。オートファゴソームは積み込んだ細胞質をリソソーム(植物細胞や酵母では液胞と呼ぶ)へ輸送する。オートファゴソームはリソソームと融合すると「オートリソソーム」となり、積荷の細胞質を消化液

る。そのため栄養不足になるとオートファジーが活発になり、オートファゴソームはタンパク質や細胞小器官を求めて細胞を食い漁る。これらのタンパク質や細胞小器官は消化され、栄養やエネルギーとなって細胞に利用される。

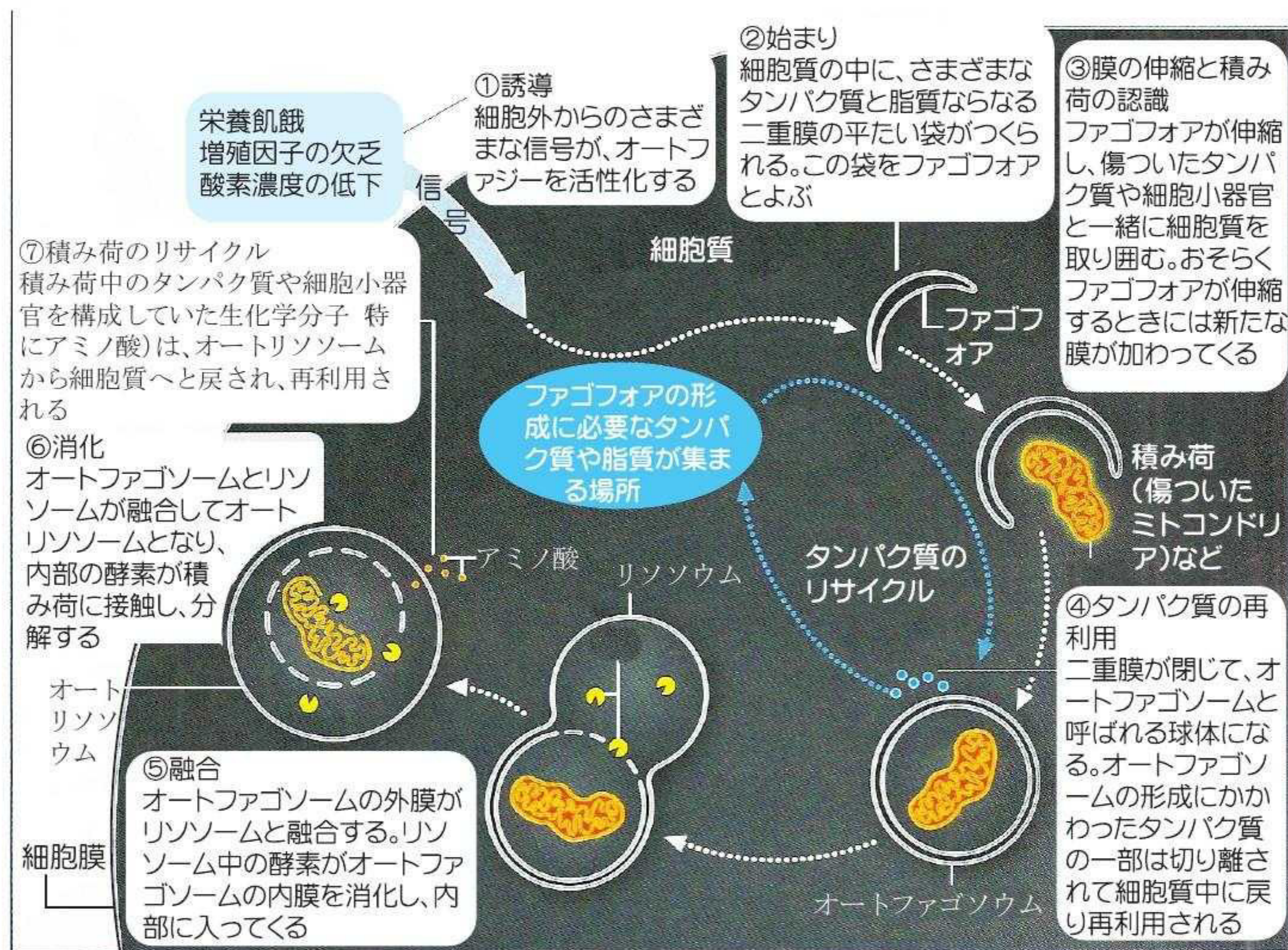
担っているが、細胞の自殺として知られるアポトーシスを開始する信号を出したりもする。細胞の分裂が異常な増殖に切り替わると細胞が自殺することもあり、アポトーシスは癌に対するもつとも重要な防御機構にもなっている。その仕組みは非常に複雑だが、数多くのタンパク質が信号を厳密に制御していることから、アポトーシスによる細胞死はきちんとプログラムされた現象だと考えられている。

シスを防ぐはずのオートファジーがなぜ時には細胞死を引き起こすのか。この研究が現在盛んに行われている。

オートファジーの働きの研究が現在盛んに行われている。オートファジーが細胞質を浄化されると、細胞はかつての活力を取り戻す。この仕組みはどんな種類の細胞にも重要だが、神経細胞のように新たな細胞に交代できない細胞では特に重要な役割を果たしている。神経細胞は個体が生きている限り生き続ける必要があるため、細胞内環境を改善し機能を維持するためには、オートファジーに頼るほかない。

科学情報 =オートファジーについて=

オートファジーの仕組み
細胞内成分の除去と分解(がらくたを対象とする場合が多い)を担当するのは、オートファゴソームという細胞小器官だ。オートファゴソームは細胞核を取り囲むゼリー状の物質の中につくられる。図はオートファゴソームが傷ついたミトコンドリア(細胞の代謝に必要な化学エネルギーをつくる細胞小器官)を取り囲み、消化器官であるリソソームへと輸送する例を示している。著者らのグループは、細胞内のタンパク質を追跡することによって、オートファジーの詳細の解明に取り組んでいる。



の中に出す。消化後に残った有用な分子は、細胞質に戻され再利用される。栄養が足りないときは、オートファゴソーム自体は細胞の栄養状態に関係なく常に作られ、細胞質の一部を取り囲む。これを繰返すと、やがて細胞質成分のほとんどが更新される。さらに、栄養飢餓や成長因子の欠乏、酸素の低下など種々のストレスに細胞が曝されると、オートファゴソームの形成が促進され

ともある。絶え間ないオートファジーは、問題のあるタンパク質の濃度を低く保つのに役立っている。オートファゴソームが取り除くのはタンパク質だけではなく、巨大な細胞小器官が傷害を受けたときにも、見つけ出して隔離できる。例えば代表的な細胞小器官ミトコンドリアもオートファジーの標的である。ミトコンドリアは、細胞内でエネルギーを生産する役割を

る。したがって、欠陥のあるミトコンドリアが誤ったタイミングでアポトーシスを始めると細胞は大混乱に陥る。

治療を確実にするには、治療期間中、腫瘍細胞の中のオートファジーを抑制すればよいのかもしれない。そのための薬剤は治療中だ。ただ残念ながら、ホワイトが指摘したように、オートファジーを抑制すると癌細胞中で遺伝子の変異が増し、再発の可能性も高くなる。適切な治療を行うには細かな調整が必要となるだろう。

オートファジーが細胞中のゴミや壊れた部品を掃除することを考えれば、このシステムが神経細胞のような長寿細胞の健康にとりわけ重要な理由も分かる。アルツハイマー病やパーキンソン病、ハンチントン病な

オートファジーは病原体を取り除くだけでなく、免疫反応の一部にもかかわっている。その詳細についてはここでは省略する。

Vojo Detetic, Daniel I. Kionsky "How Cells Clean Houses", SCIENTIFIC AMERICAN May 2008 (日経サイエンス2008年8月号) 日経サイエンス2016年12月号 (鈴木那律 訳)

2016年理学部ニュース

- 2016.03.22 大家翔馬さんが「ブルーアース2016」で若手奨励賞を受賞
- 2016.04.04 入学式
- 2016.05.02 北村晃寿教授が県内では4千年間にレベル2津波のないことを示唆
- 2016.05.02 平成29年度大学院総合科学技術研究科修士課程理学専攻学生募集要項
- 2016.05.30 三井雄太助教が日本地震学会若手学術奨励賞を受賞!
- 2016.06.08 太田隆明さんが電気化学会第83回大会においてポスター賞を受賞
- 2016.06.18 理学同窓会東京支部総会/交流会
- 2016.08.01 成川礼講師が第3回日本光生物学協会奨励賞を受賞
- 2016.08.22 香港科技大学の短期交流学生が来訪
- 2016.08.31 平内健一講師らが地球のプレートは海が存在によって弱くなることを発表
- 2016.09.08 さくらサイエンスプラン(平成28年度第2期)に採択
- 2016.09.08 原子力規制庁原子力規制人材育成事業に採択
- 2016.09.20 理学部地球科学科助教公募 応募締切:平成28年11月30日必着
- 2016.10.06 藤田啓恵さんがCJS-13において若手賞を受賞
- 2016.10.11 岡祥平さんが第20回ケイ素化学協会シンポジウムにおいてポスター賞を受賞
- 2016.10.31 国立大学法人理学部長会議が声明を発表
- 2016.11.18-20 静岡地区大学祭
- 2016.11.19 理学部ホームカミングデイ/同窓会主催科学講演会/同窓会総会
- 2016.11.22 H29年度大学院総合科学技術研究科修士課程理学専攻第2次学生募集要項
- 2016.12.15 竹下樹里さんが第6回CSJ化学フェスタで優秀ポスター賞を受賞
- 2016.12.26 理学部が取り組む原子力規制人材育成事業が静岡新聞に掲載
- 2017.01.10 藤村洸希さんが第27回基礎有機化学討論会でポスター賞を受賞
- 2017.02.02 竹下樹里さんが第26回日本MRS年次大会で奨励賞を受賞
- 2017.02.25 前期入学試験
- 2017.03.12 後期入学試験
- 2017.03.23 卒業式/学位授与式/祝賀会

□竹下樹里さんが第26回日本MRS年次大会で奨励賞を受賞
投稿日時:2017年2月2日
投稿者: r1-gakumu

本学大学院総合科学技術研究科理学専攻化学コース2年の竹下樹里さんが、平成28年12月19〜22日に横浜市開港記念会館等で開催された第26回日本MRS年次大会で奨励賞を受賞しました。

竹下さんの講演タイトルは「Dye Adsorption Behavior of Supramolecular Hydrogel Formed by Amphiphilic Tris-Urea」で、自己集合により形成する超分子ヒドロゲルの優れた色素吸着材料能を見出し、さらにその吸着メカニ

ズムを解明しました。本会は、材料科学分野における最大の学会で、産官学から千名を越す研究者が集まりました。竹下さんは、C2シンポジウム「自己組織化材料とその機能XIV」にて発表を行い、シニアな研究者を含めた62件の対象演題の中から奨励賞に選出されました。

竹下さんの指導教員は、本学理学部化学科の山中正道准教授

成28年9月1〜3日に行われた第27回基礎有機化学討論会において、ポスター賞を受賞しました。受賞発表題目は「動的イミン結合に基づく超分子ジャイアントリングの合成」です。柔軟な長鎖スパーサーをもつDitopic系では、動的イミン結合を用いることによって、通常予想される鎖状ポリマーにはならず、無理のない最小の数からなる超大環状二量体に収束することを見出しました。

本討論会(主催:基礎有機化学会、共催:日本化学会)は有機化学分野では最大の学会であり、318件のポスター発表の中から22件がポスター賞として選出されました。

藤村さんの指導教員は理

理学部が取り組む原子力規制人材育成事業が静岡新聞に取り上げられました
投稿日時:2016年12月26日
投稿者: r1-gakumu

2016年度原子力規制人材育成事業の取り組みが静岡新聞に取り上げられました。

本学では2016年度から理学領域大矢恭久准教授を中心に、九州大学、富山大学及び教育系大学と連携し、「放射線安全のための大学間連携放射線計測専門家・教育者育成プログラム」を実施してきています。このうち、12月23〜24日に

□竹下樹里さんが第6回CSJ化学フェスタで優秀ポスター発表賞を受賞
投稿日時:2016年12月15日
投稿者: r1-gakumu

本学大学院総合科学技術研究科理学専攻化学コース2年の竹下樹里さんが、平成28年11月14〜16日にタワーホール船堀(東京)で開催された第6回CSJ化学フェスタで優秀ポスター発表賞を受賞しました。

竹下さんの講演タイトルは「両親媒性トリスウレアにより形成する超分子ヒドロゲルの色素吸着挙動」で、自己集合により形成する超分子ヒドロゲルが、優れた色素吸着材料として機

で開かれ、承認された国立大学法人理学部長会議声明―未来への投資―が平成28年10月31日に東京工業大学大岡山キャンパスにおいて発表されました。
投稿者: r1-gakumu

国立大学法人理学部長会議声明―未来への投資―
□岡祥平さんが第20回ケイ素化学協会シンポジウムにおいてポスター賞を受賞
投稿日時:2016年10月11日
投稿者: r1-gakumu

2016年10月7日〜8日に広島県で開催された第

投稿者: r1-gakumu
2016年9月26日〜29日に中国・合肥で開催された13th China-Japan Symposium on Materials for Advanced Energy Systems and Fusion & Fusion Engineering (CJS-13)にて、本学大学院総合科学技術研究科理学専攻物理学コース修士課程2年の藤田啓恵さんが若手賞を受賞しました。

発表題目は「The damage depth profile effect on hydrogen isotope retention behavior in heavy ion irradiated tungsten」で、核融合プラズマ対向壁中の重水素滞留における照射欠陥分布影響に関して口頭発表し、受賞に至りました。

藤田さんの指導教員は、本学理学部理学領域の大矢恭久准教授。

投稿者: r1-gakumu
原子力規制庁原子力規制人材育成事業に採択されました
投稿日時:2016年9月8日

原子力規制庁原子力規制人材育成事業に理学部が提案した「放射線安全のための大学間連携放射線計測専門家・教育者育成プログラム」が採択され、9月1日より事業を開始しました。本事業では放射線に興味を持つ理工系学生を対象とした放射線計測・放射性物質取扱教育プログラムと学校教育において正確な放射線教育をしようとし、将来教育者をめざす学生を対

静岡大学にて実施した理工系プログラムが静岡新聞に掲載されました。

能することを見出し、さらにその吸着メカニズムの解明に成功しました。本会は産官学から3千名を越す研究者が集まり、全1196件のポスター発表の中から214件が優秀ポスター発表賞として選出されました。

竹下さんの指導教員は、本学理学部化学科の山中正道准教授。

□国立大学法人理学部長会議が声明を発表しました
投稿日時:2016年10月31日
投稿者: r1-gakumu

静岡大学を含む34校の国立大学法人理学部長会議が平成28年10月7日に東京都

健吉教授(理学部副学部長)。

□藤田啓恵さんがCJS-13において若手賞を受賞
投稿日時:2016年10月6日

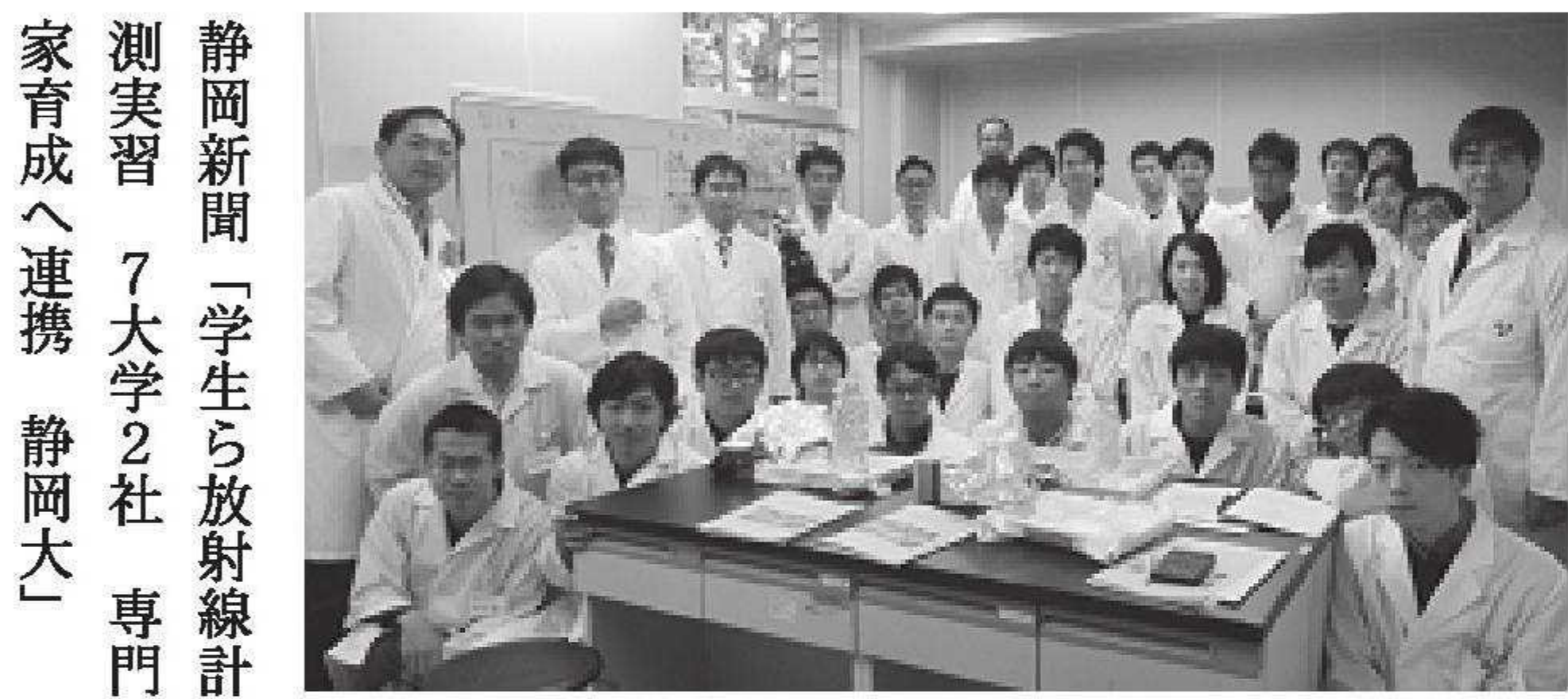
投稿者: r1-gakumu
科学技術振興機構さくらサイエンスプラン(平成28年度第2期)に理学部から提案した「核融合炉開発のための水素同位体測定技術」が採択されました。

本事業は次世代のエネルギー源のひとつとして水素同位体を燃料とした核融合

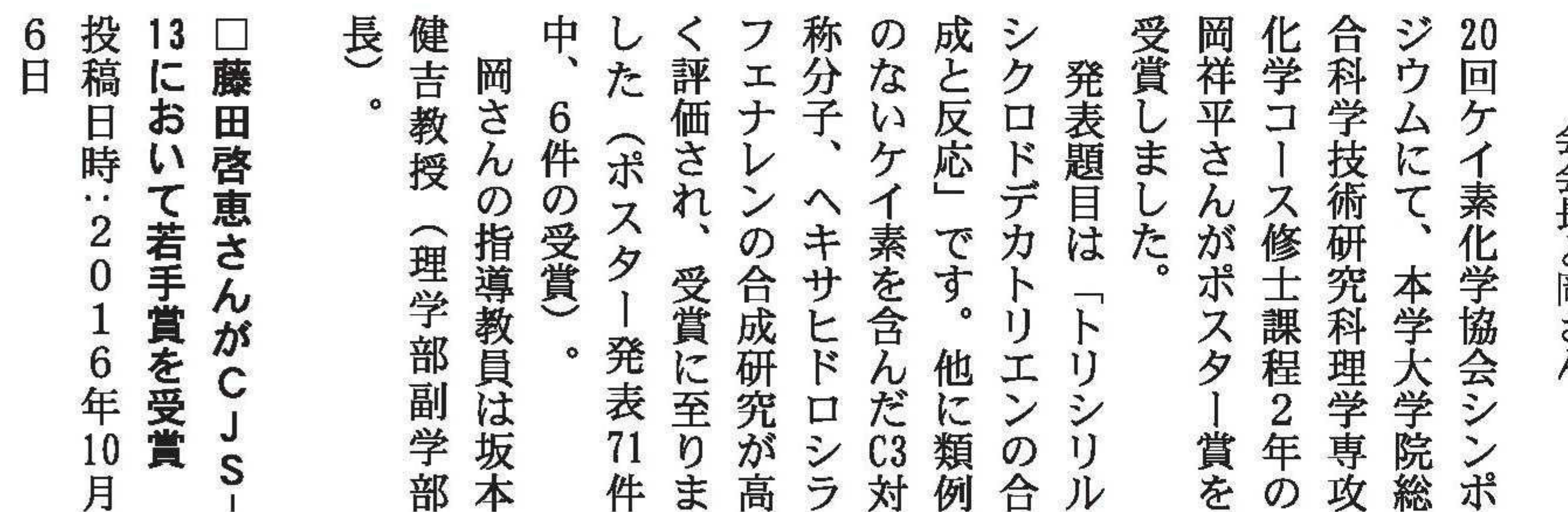
炉が世界で検討されていますが、融合炉では放射性水素であるトリチウム(三重水素)を用いることから、これらの測定技術を理解するとともに、核融合炉内の水素同位体挙動を明らかにすることが重要です。本事業では本学が有する水素測定技術について学習しその分析技術の理解を深めるもので、本理学部が連携協定を締結している中国西南物理研究院及び本学創造科学技術大学院が連携協定を締結している中国科学院等離子体物理研究所から教員・大学院生11名を招聘し12月8日から17日まで実施しました。

また招聘期間中には本学理学部が連携している核融合科学研究所及び富山大学研究推進機構水素同位体科学研究所センターの訪問も行いました。

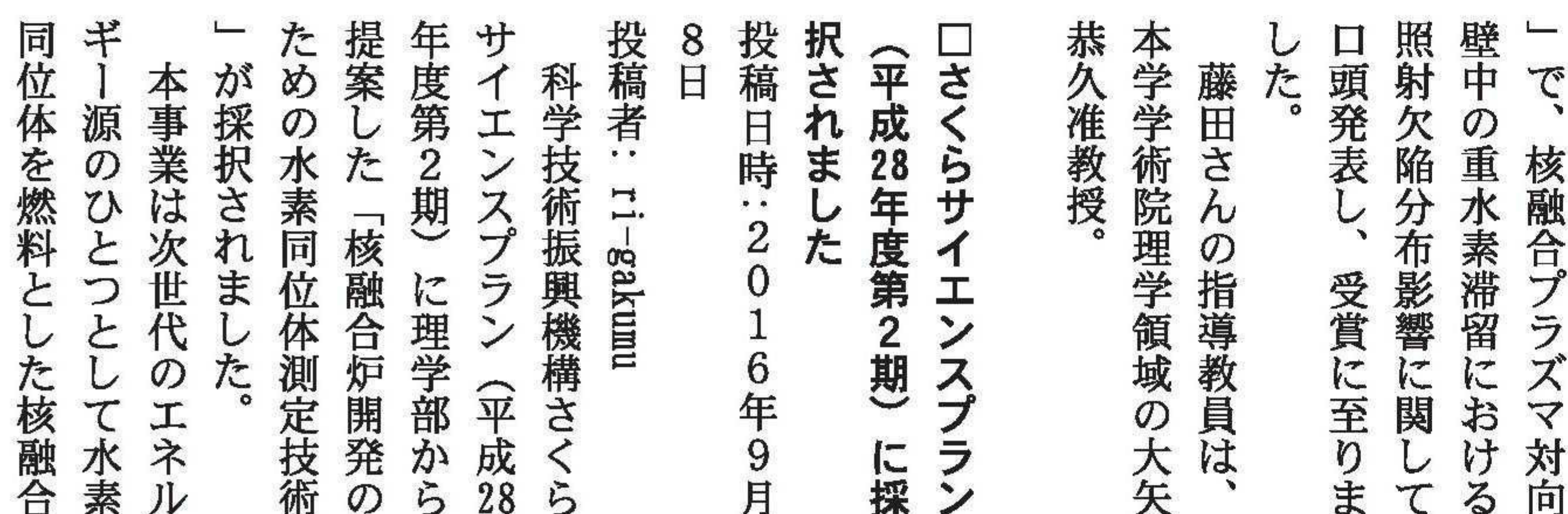
本事業の主担当は理学領域放射線科学系列の大矢恭久准教授です。



静岡新聞「学生ら放射線計測実習 7大学2社 専門 家育成へ連携 静岡大」



時任宣博ケイ素化学協会会長と岡さん



藤田さんと大矢准教授

静岡大学理学部同窓会会計報告 (平成27年度)		
一般会計		2016年3月31日
収入の部	前年度繰越金	3,450,220
	前年度未払金	2,239,868
	終身会費	3,120,000
	寄付	61
	記念誌発行	0
	名簿代	31
	受取利息	57,000
雑収入		57,000
合計		8,867,180
支出の部	印刷費	3,593,180
	通信費	691,993
	会議費・旅費交通費	331,063
	事務用品費	1,743
	送金手数料等	30,622
	備品代	19,614
	ホームページ作成	0
	特別講座支援	209,900
	学術集会等支援	0
	事務手数料	360,000
	総会費	180,000
	東京支部部活動費H26-27	371,000
	全学同窓会負担金	0
慶弔費・その他	58,240	
合計		5,847,355
差引残高		3,019,825
備考	印刷費	1,857,708
	前年度未払分	146,061
	振込票 (大日三協 (株))	690,606
	卒業研究抄録集	816,018
	会報印刷 (8000部)	55,188
	はがき・封筒	110,000
	特別講座支援 (平成27年度)	99,900
理学部 ロゴマーク	18,300	
備品代	ケーブル、分配器	18,300

以上報告いたします。
平成28年3月31日
会計担当理事 (代理) 浅野 安人
監査の結果、報告のとおり相違ありません。
監査 松山 初男
監査 野口 和廣

対象とした放射線計測中等・高等教育指導者育成プログラムの二つのプログラムを実施します。

放射線計測・放射性物質取扱教育プログラムでは、九州大学、富山大学と連携し、理工系で原子力や放射線に高い興味を持つ学生に専門的な放射線計測技術に関する実習を中心に実施します。また、放射線計測中等・高等教育指導者育成プログラムでは正しい放射線計測手法が学習できる教育プログラムを構築し、実際に計測し、教育系大学生・大学院生に実際に計測手法を教育し、正しい情報発信のできる人材を育成しようとするもので教育学部及び全国の教育系大学と連携して実施します。

静岡大学理学部地球科学科の平内健一講師らの研究グループが、「地球のプレートは海の存在によって弱くなる」ことを発表しました。2016年8月29日、静岡新聞 H28/8/27掲載記事 (静岡新聞社時事通信社許諾)

静岡大学の平内健一講師と修士課程2年福島久美さん (総合科学技術研究所) (理学専攻/地球科学コース)、東北大学の武藤潤准教授、岡本敦准教授らの研究グループは、室内での岩石変形実験の結果を元に、海水のプレート内部への浸透と水と鉱物との反応によって生まれる弱い鉱物の存在がプレートテクトニクス※1を駆動するために必要であることを明らかにしました。

1960年代に登場したプレートテクトニクス理論によって、地球で起こる様々な現象の説明が可能となりました。一方で、そもそも「どのようにしてプレートテクトニクスが始まったのか」という根本的な問題が解決されていません。我々は、海洋底に存在するトランスフォーム断層※2に海水が浸透することにより「力学的に異常に弱い面」が形成されること、ひいてはプレートテクトニクスが起きる上で重要な役割を果たすことを突き止めました。

この結果は、プレートテクトニクスの進化を明らかにするだけでなく、他の地球型惑星※3においてプレートテクトニクスが存在しない理由を理解する上で重要な成果であると言えます。

詳細は、理学部HPからPDFにてご確認ください。

香港科技大学の短期交流学生が来訪しました
投稿日時: 2016年8月22日
投稿者: i-gakumu

2016年8月3日、部局間協定校である香港科技大学より4名の学生が、短期留学プログラムにより来



富士山での巡検

8月10日までの期間中、駿河湾での海洋実習や富士山巡検等を体験し、後半には、今年度より理学部に導入された創造理学コースの学生と交流会も行いました。

8日間の短期留学プログラムではありましたが、協定締結後、双方のプログラム

ムを成功させ、協定校としての学生交流においても実績を積み重ねることとなりました。

成川礼講師が第3回日本光生物学協会奨励賞を受賞
投稿日時: 2016年8月1日
投稿者: i-gakumu

本学学術院理学領域 (生物科学系列) 所属の成川礼講師が、平成28年7月28日、29日に東京大学で開催された第19回日本光生物学協会年會において第3回日本光生物学協会奨励賞を受賞しました。



発表題目は「マグネシウム塩を用いた新規分子結晶の合成と電解質材料への応用」です。

近年、マグネシウム二次電池は革新的二次電池として期待されており、その開発に向けて電解液中でのマグネシウムイオンの振る舞いを知ることは重要な課題となっています。太田さんは、マグネシウム塩を出発原料とした新たな分子結晶を合成するとともに、得られた分子結晶の単結晶X線構造解析を行うことにより、溶媒和状態にあるマグネシウム塩の構造を明らかにすることに成功しました。

指導教員は学術院 理学領域 化学コースの守谷誠講師。

三井雄太助教が日本地震学会若手学術奨励賞を受賞!
投稿日時: 2016年5月30日
投稿者: i-gakumu



本学学術院理学領域 (地球科学系列) 所属の三井雄太助教が、日本地震学会2015年度 若手学術奨励賞を受賞しました。

受賞対象研究は「断層力学・モデリングに基づく震源過程の多面的研究」。

受賞理由は「断層力学に基づく地震発生シミュレーションと地震変動モデリングの両面から震源過程に関する多彩な研究を推進し、若手研究者としてこの分野の進展に大きく貢献してきた」ことです。

北村晃寿教授が県内では4千年間にレベル2津波のないことを示唆
投稿日時: 2016年5月2日
投稿者: i-gakumu

東北地方太平洋沖地震に伴う巨大津波による激甚災害を教訓に、国は南海トラフで起こる巨大地震に伴う「あらゆる可能性を考慮した最大クラス(レベル2)の津波の高さ」を公表しましたが、この想定は限られた科学的知見に基づくもので、国は津波堆積物調査等の促進を図り、巨大地震の全容を解明するため努力が必要と述べています。そこで、著者は共同研究者や自治体

とともに、先史時代の津波堆積物の調査がされていなかった静岡県中・東部の海岸低地を調査しました。それらの研究と他の研究者の研究成果を総括し、東北地方太平洋沖地震の津波堆積物の分布と比較して、静岡県過去の4000年間の地層・地質記録にはレベル2の津波の発生の証拠がないことを明らかにしました。この成果は、レベル2の津波の想定の見直しや防災計画に役立つことが期待されます。

詳細は下記のURLから
http://www.shizuoka.ac.jp/pub/ie/news/detail.html?CN=3119&PC01=IS01

大家翔馬さんが「ブルーアース2016」で若手奨励賞を受賞
投稿日時: 2016年3月22日
投稿者: i-gakumu

理学領域 道林研究室の大家翔馬さん (総合科学技術大学院理学専攻地球科学コース1年) が東京海洋大学で開催された研究発表会「ブルーアース2016」 (海洋研究開発機構主催) で若手奨励賞 (優秀ポスター賞) を受賞しました。発表課題名は、マリアナ海溝最西端で採取された海洋かんらん岩の地質学的研究」です。





「空(クウ)の世」について

18理一 杉浦 三郎

若い頃から人生について考えており「自分が存在する」また「人間(ヒト)は必ず死ぬ」という二つの真理についていろいろと思索して来ましたが、西田哲学、仏教哲学などの考え方を通じて有無を超越した「空の思想」の尊さを認識するようになりました。しかし、では「人間(ヒト)は死んだら何処へゆくのか」という疑問は常に消えることなく続いておりましたが、最近になり求め続けていたものがはつきりとつかめるようになりました。

それは勘とひらめきとしてひとつの悟りのようなものです。これは理屈では説明できませんが、以下少しづつ述べてゆきます。

その二は「それは何処か」ということです。日本人の言っているあの世については何の根拠もありませ

が、この点二大宗教の教祖であるキリストもブッタも教えてはいません。それは簡単に言って「分からない」からと考えられます。キリスト教の天国、仏教の彼岸とはいつたい何処なのか何の説明もありません。つまりところそんなものは無いからであり、こんないい加減なことでは人間は安心して死んでゆけるでしょうか？

否といわざるを得ません。さらにこれは布教のためのもので、キリスト教の「天国と地獄」、仏教の「地獄、極楽」はよく似ています。これによると人間(ヒト)は死後最低でも二ヶ所に分かれて行くことになり

「空の世」には過去のすべての人間が行っており、現在・未来の人間(ヒト)もすべてこれから行くことになり。時間(トキ)のない世界なので、何の支障も生じません。キリスト教徒も仏教徒も、その他の教徒も皆ここにゆくのです。宗教の違いなど何の意味もあ

りません。その四は「空の世」は位置も形もなく零即無限の世界という事です。すなわち何処にあるのかは勿論どんな形をしているのかも分からないように非常に小さいが、無限に大きいというこの世の人知では想像もつかない世界です。

したがっていつでもいかなる状況にも対応し、無数の人間(ヒト)の魂を収容できるすばらしいところである。いずれ私も行きますがあなたも行くのです。死ぬ前に会いたい故人にメッセージ送っておいたら如何ですか？ ひよつとしたら会えるかも知れません(これは冗談ですが、死んでからではメッセージは送れません)。例えばクレオパトラ、ミケランジェロ、ゴッホなど如何ですか。私はヒミコに会いたいのと思っています。たとえ会えなくても同じ「空の世」にいるだけでも心が休まり、楽しくなります。

すなわち死んでから行く処を自覚していれば死に対する恐怖心や心の不安が無くなるので、安心して生きていくのです。また安心して死ねるのです。これが「空の世の真髄」です。

逆にそれが分かっている人間はつねに恐怖心と心の不安の中で死ぬことにならなす。これが牧師や坊主などのメシの種になるのです。カルトなどの新興宗教がはびこるのもそのためです。お経を唱えようと救われると教えている宗教もありませんが、これも二セモノと思われま

一度唱えれば安心できるというのなら、その後のお経は不用なはず。しかし実際にはお経をやめればまた不安がつり繰り返しお経を唱えないと居られなくなり。これがメシの種にされるのです。マヤカシでしょうか。

これは「空の世の真髄」です。

なれどおのずから人間(ヒト)の心の中に現れる

「空」は零即無限の世界有るべくもない「空」

時間(トキ)もなく位置も形もないゆえに

時間(トキ)のあるこの世を終えて時間(トキ)のない「空の世」にかえる日近し

おきます。

おきます。

玉盞に刻んだ三年(ミトセ)の春 誇らしい三年の春

25理四 中島 哲 二

私が旧制静高に入学したのは1947年4月である。誰にとっても少年から青年になるのは人生の転換期であるが、旧制高校に入学し、さらに仰秀寮に入寮したことで劇的な転換期となった。初めて家を離れて多士済々な先輩、同僚、後輩と共同生活を体験したことは人生観に衝撃を与えられた。社会には多種多様な人々に溢れているというのが実感であった。敗戦後で物資、特に食糧の不足が深刻であったから楽しい寮生活であったとはいえないが...

翌年入学した諸君は一年間だけで、廃校が発効して放り出されてしまった。上級生としての優越感の経験は一年間で終わって

なりました。おきま

ある。否応なしに先の戦争、さらには国について考えた。あの戦争は周辺諸国に甚大な被害を与えたばかりではなく、この国にとっても史上最大の、しかもとびぬけて大きな災害であった。さらに自然災害ではな

た。

しまつたが、おかげで寮には三年間居続けることが出来た。寮時代の友人の中心で、今でも松下忠夫(24理三)、原田稔(26文一甲)、佐治俊彦(26文二丙)、渡辺修吉(26文一甲)らと月一回集まつて、僅かな酒でオダをあげている。

さらに特異なのは個人的な転換期であったばかりではなく社会・国家の転換期と重なっていたことである。敗戦から二年目で社会は荒廃のどん底で、これらの再建が緊急課題であり、めまぐるしく流動していた。

我々にとっては受験勉強優先の生活から解放されてやっとな社会、歴史、政治、思想について考える時間が与えられたのである。いや考えざるを得なかったのだ

性、現代的理性なのだということを感じた。「大日本帝国臣民」からまともな人民へ脱皮できたことが、この時期の最大の成果だった。思い出すと懐かし、誇らしい「三年の春」であった。

松浦

事務局だより

○昨年は、3年連続で日本人の先生がノーベル賞受賞となり話題になりました。細胞の働きの研究で評価され、生理学医学賞の受賞という事で、病気の治療法の開発に期待がかかりますね。また、新元素が「ニホニウム」と命名され、科学技術が身近なものになってきたように思います。

○昨年4月の熊本地震では、被害が広がり、熊本城の復旧や生活の完全な復興までは長い道のりと言われていますが、がんばれ熊本！

○サツカー王国静岡県では、ジュビロ磐田に中村俊輔選手が移籍、清水エスパルスもJ1に復帰、と明るい話題がたくさんあります。

○理学部は、今年も各地で同窓会・交流会が開かれます。同窓生の皆様のご参加をお待ちしています。

●同窓生の皆様に住所や勤務先、連絡先(電話・FAX)等の変更がございましたら、同窓会事務局までご一報ください。また、同窓会主催・共催の催し物のお問い合わせも同窓会事務局までどうぞ。

●同窓会事務局員も、現在の担当になって今年で8年目を迎えます。今年度も同窓生の皆様へ大学内の情報を精一杯お届けします。

●連絡先は左記の通りです。〒425-8529 静岡県静岡市駿河区大谷836 静岡大学理学同窓会事務局 E-mail:scain@shizuoka.ac.jp ※メールアドレスが変更になりました。 松浦



第三回東京支部理学同窓会の開催にあたって
東京支部長 藤岡換太郎(67化)

早いもので二〇一三年にスタートした理学同窓会東京支部の総会は今年で3回目を迎えることになりました。二〇一三年には最初の全学同窓会(東京交流会)が開催され、すべての学部で足並みをそろえるために理学部も東京地区で独自の同窓会を持つことになったのです。そして私が初代の支部長に就任しました。私の構想は毎年必ず同窓会を開催することです。理学部の本部では毎年二月に静大祭が開催されますが、その折に学生や関係者が集まっています。東京支部は大学からも遠くはなかな卒業生が集まったりする機会はありません。そこで支部の同窓会というものが意味を持つてくるわけです。二〇一三年以来2回の同窓会(総会)を持ち、今年が3回目になり、同時に3年おきに開催予定の全学同窓会(東京交流会)も今年開催されることになりました。

つていいかもしれません。たった4年間に過ぎない静岡の生活でしたが、若き日をそこで過ごしたことは大変意義深いものでした。同窓会はそのような思いを語りあえる場ではないでしょうか。そして今年もまた同窓会が開催できたことはうれしく思います。ぜひこの場で学科、学部、学年を越えて同窓生と語りあいましよう。

第三回同窓会開催に思う

志田原巧(70物)

理学同窓会東京支部の毎年恒例の同窓会も、第三回を迎えました。今年は、他学部同窓会の東京支部と共同して東京交流会主催として合同で実施することになりました。私も、理学同窓会東京支部の幹事として運営に参加して2年目(2回目)の同窓会を開催させていたこととなり、やっと同窓会活動にも慣れてきたところではあります。理学同窓会とは、金銭関係のない真理には敏感な人たちの集まりという特色があり、このことが向上心にもつながって、新しい知識などを得ることに積極的なのではないかと思っております。そのような観点で活動を続けられればよいなと考えております。今では他学部の同窓会東京支部との協力も進み、東京における静岡大学同窓生の憩いの場が完成していくのを感じております。理学部という枠に限らず、静岡大学同窓会の一組織として発展させることができればと思っておりますが、今後の発展を考えると、若い方々の参加を期待してやみません。

第3回東京支部理学同窓会を終えて

第3回理学同窓会とは昨年6月18日(土)に神田の如水会館で行われた。今回は全学同窓会である東京交流会との合同開催であった。以下に、理学同窓会東京支部の二〇一六年度の活動報告と、同窓会の開催にあたって同窓生の経過を掲載する。(足立信広)

1. 静岡大学理学同窓会(東京支部)の活動報告

- (1) 活動記録
「理学同窓会関係」
第二回理学同窓会東京支部総会
2015年5月28日(土)
アルカディア市ヶ谷 穂高の間にて開催
出席者 8名、来賓 3名
第5回幹事会
2015年7月2日(木)
議題・第二回理学同窓会東京支部総会の反省および総会の会計監査
出席幹事・藤岡、長谷川、志田原、足立、石原、竹内、工藤 計7名
第6回幹事会
2015年10月2日(金)
議題・第二回東京交流会、第三回理学同窓会東京支部総会準備
出席幹事・藤岡、長谷川、足立、竹内 計4名
本学の同窓会総会
2015年10月14日(土)
藤岡支部長、長谷川副支部長、足立副支部長が出席。
第7回幹事会
2015年12月5日(土)
議題・第二回東京交流会、第三回理学同窓会東京支部総会準備
出席幹事・藤岡、長谷川、志田原、足立 計4名

第1回幹事会

2016年1月29日(月)
議題・第二回東京交流会、第三回理学同窓会東京支部総会準備
出席幹事・藤岡、長谷川、志田原、足立、原口、石原、奥野 計7名
第2回幹事会
2016年3月23日(水)
議題・第二回東京交流会、第三回理学同窓会東京支部総会準備
出席幹事・藤岡、長谷川、志田原、足立、竹内 計5名

第3回幹事会

2016年4月29日(月)
議題・第二回東京交流会、第三回理学同窓会東京支部総会準備
出席幹事・藤岡、長谷川、志田原、足立、原口、石原、竹内 計7名
第三回理学同窓会東京支部総会
2016年6月12日(土)
如水会館にて開催

- 「東京交流会関係」
第4回実行委員会
2015年6月6日(土)
第5回実行委員会
2015年9月29日(土)
第6回実行委員会
2015年12月5日(土)
第7回実行委員会
2016年1月6日(土)
第8回実行委員会
2016年3月28日(土)
第9回実行委員会
2016年5月7日(土)
第二回東京交流会
2016年6月18日(土)
如水会館にて開催

長谷川副支部長、足立副支部長が出席。

(2) 東京支部幹事会の組織(2016年6月28日現在)
支部長・藤岡換太郎(67化・地学)
副支部長・長谷川隆義(66生)
副支部長兼書記・志田原巧(70物・地学)
副支部長兼会計・足立信広(69化)
幹事・山川恵子(67数)、原口悟(69地球科学)、竹内真司(90院地球科学)、石原英一(87数)
会計監査・工藤信一郎(66数)
顧問・奥野健二(67化)

第二回全学同窓会 東京地区交流会

全学同窓会東京地区交流会は2016年6月2日(土) 如水会館2階のスタールにて開催された。
鶴飼暢雄実行委員長、伊東幸宏学長の挨拶のあと農学部 陽捷行北里大 学名誉教授の講演が行われた。農学と医学の融合の話であった。次いでグリークラブの合唱のあとは大江戸玉すだれの公演が行われた。公演はすばらしいものであった。



中田敏弘実行副委員長の挨拶のあと閉会し、懇親会へ移った。

祝辞概要

理学同窓会会長 浅野安人

静大理学部は、1965年に設立されてから50年目に入りました。大岩から片山の地に移転してから50年近くの歳月が流れ、今では、静鉄ジャストラインの東大谷ゆきも午前中は、ほとんどのバスが静大前を経由しています。理学同窓会も、文理改組から遅れることなく50年目に設立され、初代会長として数学科の赤池大樹氏が就任されてから50年目に入りました。卒業生の数も一人になろうとしています。昨年静岡地区の第一回全学交流会が開催され、今年第二回目の東京地区の全学交流会が開催されます。そして来年は名古屋地区での全学交流会が開催される計画が進んでいます。このような流れの中で、東京支部の皆様方が、全学同窓会の先鞭をきって進んでゆかれることを頼もしく思っております。



理学同窓会集合写真

同窓生の窓

人生を豊かに

山川 恵子 (92歳)

最近ある雑誌でこんな川柳を見かけました。同窓会 出世果たした人ばかり (こんな意味合いで、正確ではありません) 大学時代から落ちこぼれ、お情けで卒業できた(と思つている) 私にとつて、この川柳は「えー、そうなの。男の人って窮屈！」が正直な気持ちでした。

この理学同窓会には、その道を究めた人、学んだ学問とは無関係な分野で活動している人、普通のサラリーマン生活を送る人、リタイヤして趣味に精を出す人、育じい・育ばいばなど様々な人生を歩んでいる人が大勢集います。皆さん！楽しい情報交換をして「ワクワク」しましょう。

夢は宇宙を駆けめぐる

長谷川隆義 (66生)

前回の理学同窓会からほぼ1年、今年は2回目の静大同窓会東京交流会を控え、その広報を担当することになり、案内状や当日配るパンフレットの製作に追われました。

昨年(10月以降は、「重力波とニュートリノ」が解く宇宙の始原(仮)という執筆依頼に沿って、資料を調べたり、取材してきました。アインシュタインの一般相対性理論からちょうど100年目の今年2月、アインシュタイン「最後の宿題」といわれた重力波(時空のさざ波)の直接検出に成功したという報道が全世界を駆け巡りました。

初期宇宙は、インフレーションという急膨張の後、ビッグバンで莫大なエネルギーが解放され、このとき「対生成」で物質と反物質が同量でき、すべての素粒子が生まれたときから膨張しています。けれども膨張により宇宙の温度が低下するに伴い、対生成が起こりにくくなり、かわつて「対消滅」が優勢となり、物質と反物質は等しい量のままエネルギーとなって跡形もなく消えてしまふはざです。ところが、なぜか反物質は消え去り、わずかに残った物質がこの宇宙を作り上げていったとされています。

このような初期宇宙の解明には、宇宙開闢直後(10のマイナス10乗秒後)に放たれた重力波の直接検出、その2秒後のニュートリノからの情報が鍵となつてきます。初期宇宙の「消えた反物質の謎」を巡って、取材は始まったばかりです。

理学卒業生の多様性を発揮しよう

足立信広 (79化)

静大理学同窓会東京支部の総会も今回で3回目を迎えることができました。他学部と比べてまだ歴史が浅い支部ですが、これから歴史を作っていきます。これまでの総会では、退官される先生の記念講演、卒業生の研究者による専門分野の講演や世界一周食歩きの話、卒業生の尺八、バトイオリン演奏などのイベントを行いました。昨年は懇親会中にM8.1の地震が発生

し、即興の「特別講義」があるなどそれぞれの専門分野、得意分野を活かした交流を行つております。これまで参加されていない卒業生の方にも参加していただき、更なる多様性を発揮していきましょう。

同じ土地で過ごした人同士でないとい味わえない喜びがあります

石原英一 (87歳)

大学関係者が多い手前、大変、心苦しいのですが、大学時代の僕は、学食(学生食堂)にはよく顔を出していました。授業には、あまり出ていませんでした。よつて、いつも単位取得に苦労していました。しかし、この歳になつて改めて振り返ると静岡大学に行つていなければ今の自分はありません。大学は学力を身につけ、研究する場所なのでしようが、僕にとっては幸せに生きる方法を見つける場所だつたようです。

同じ時間を過ごした人同士でしか味わえない喜びがあるように、同じ土地で過ごした人同士でないとい味わえない喜びが、この会にはあります。大学時代は授業に通えませんでした。この会には可能な限り、お手伝いさせていただきます。機会があるので、あつかましく告知をさせていただきます。来月、朝日新聞出版からペンネームのイシコ名義で新刊「世界一周飲み歩き」(朝日新聞出版)が出ます。他にもかくにも今後とも、よろしくお願ひ申し上げます。

静岡の昨今

原口 悟 (80年地球科学)

静岡大学理学部に在学したのは、1980年代前半で、ちょうど平成に入った頃になります。最近大学を再訪しているのですが、在学当時と比較すると、学部内の理学部周辺は図書館前の校舎の新築が最も大きな変化で、周辺を含めて大きな変化は少なく、当時の面影が強く残つていると言えらる。静岡駅周辺は、静岡駅南口周辺、静岡貨物駅(現在の東静岡駅)周辺が再開発されて当時とは大幅に変化しており、静岡発のバスの終点だつた新静岡センターも大きく変化しています。静岡と清水を結んでいた静岡鉄道の電車も、長らく変化していません。今年から新車が走りはじめ、こちらも変化が始まりました。このような変化の中でも、当時の静大での経験、静大出身であるという意識は変わつてな

く、現在の社会での活動の基礎になつていいます。今後同窓会を通じて様々に活動していきたいと考えています。

近頃はソーシャルネットワークや先輩・後輩、さらには卒業生に至るまで連絡をとれる情報化社会である。SNSでの交流とは、それぞれが

好き勝手にウェブ上にアップした日常の出来事に対して、受け手側が適当に眺めて「いいね」ボタンを押すことによつて成り立っている。このようなつながり方は気楽で今の多忙な時代に合っているのかもしれない。同窓会でもSNSは利用できるが、本質的にはアナログの活動である。正直、年代から年代の頃は自分の周りの家族や社会への対応だけで精一杯で、同窓会に関心があつたとは言いがた

い。しかし、年代になつた頃から同じ頃に学生時代を知る方々と当時の静大の様子や先生方の話をすることが懐かしくて暖かく感じるようになつたように思う。当時と現在を比べながら、同期だけでなく、大学時代を重ならない大先輩や若い後輩諸氏とも話が弾むのは同窓会ならではの醍醐味。会うことはウェブ上で眺めるよりも暖かい、それが同窓会なのかなと思えるこの頃である。

幹事団の皆様のご理解のおかげで、2年目の幹事を務めさせていただきました。また、今回も懇親会の司会を仰せつかりました。よろしくお願ひいたします。昨年(同窓会)の真只中に、小笠原付近(地下約500m)を震源としたM8.5の地震が発生し、東京でも震度5強を観測しました。その後、都内の交通が一次的にマヒし、多くの方が帰宅に時間がかかつたことと思ひます。今年はそのようなこ

とが無いように祈るばかりです。(先の熊本地震など、このところの地震の頻発も気になります。)

さて、理学同窓会の懸案事項として、住所録が整備されていない、ということが挙げられます。そのため、多くの会員がいるにもかかわらず、同窓会の連絡が行き届かないという状況です。理学同窓会を盛り上げ、実のあるものにしていくためには、多くの皆さんの参加が必要不可欠です。さらに継続していくためには、若い世代(定義は難しいですが)の会員の参加が必要と考へます。これにより異分野の交流が継続的に進み、有機的なネットワークが広がり、新たな発想・発見、ビジネスチャンスに繋がっていくと確信しています。是非、ネットワークを広げていければと思ひます。一人が新たな一人を連れて参加すれば、あつという間に大きな輪になりますね!

2016年6月18日(土)第3回理学同窓会が神田の如水会館で行われた。今回は全学同窓会(東京交流会)と合同で開催された。参加者は東京交流会全体で220名、理学同窓会では80名であった。坂本健吉理学部長代理や浅野安人理学同窓会長などを来賓として招待した。

竹内真司(11院地球科学)

幹事団の皆様のご理解のおかげで、2年目の幹事を務めさせていただきました。また、今回も懇親会の司会を仰せつかりました。よろしくお願ひいたします。昨年(同窓会)の真只中に、小笠原付近(地下約500m)を震源としたM8.5の地震が発生し、東京でも震度5強を観測しました。その後、都内の交通が一次的にマヒし、多くの方が帰宅に時間がかかつたことと思ひます。今年はそのようなこ

とが無いように祈るばかりです。(先の熊本地震など、このところの地震の頻発も気になります。)

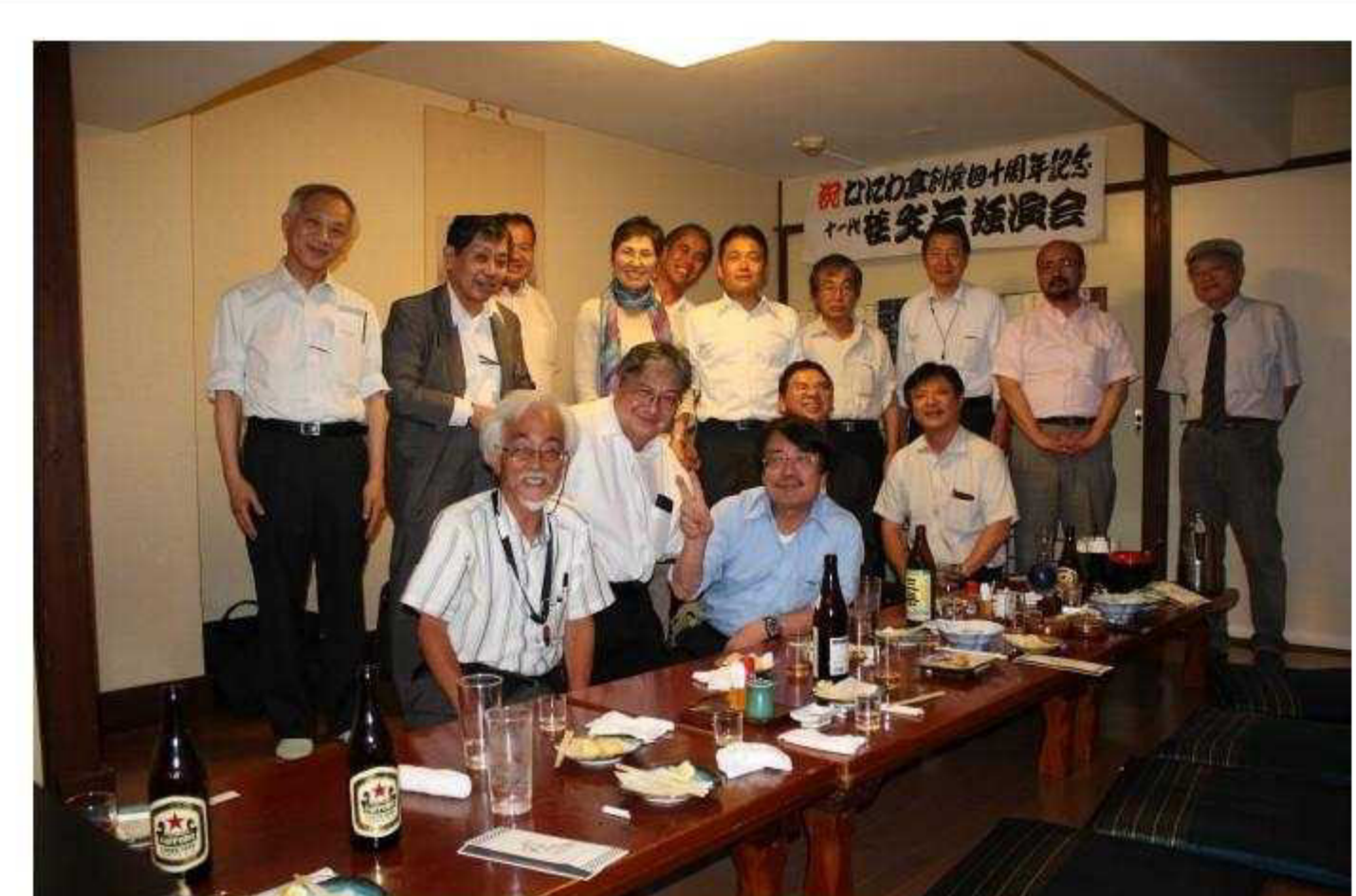
がなされ、全会一致で承認された。時間の都合でGPで行った。次に道林克禎教授の「マンホール計画」と題した講演が行われた。地球の内話、深海掘削でモホ面まで掘る計画の歴史と掘る必要性についての話であった。活発な質問がたくさん出された。最後に、時間に余裕があつたので参加者の紹介を行つて、今度は天気が良いので外へ出て再度GPを撮つた。

全学同窓会は2階のスターホールで行われた。鶴飼暢雄実行委員長、伊東幸宏学長の挨拶のあと農学部品の陽捷行北里大学名誉教授の講演が行われた。農学と医学の融合の話であった。次いでグリーンクラブの合唱のあとは大戸玉すだれの公演が行われた。公演はすばらしいものであつた。中田敏弘実行副委員長の挨拶のあと閉会し、懇親会へ移った。懇親会は立食形式で学部ごとにテーブルへ分散した。理学は18、19、6番のテーブルに集まり、ほと卒業年代順に並んで席についた。宴たけなわなるにつ

2017年の理学同窓会 東京支部の総会 日時: 5月27日(土) 17時30分 場所: 私学会館アルカディア(千代田区九段北4)

今年から立ち上がる地学同窓会との合同開催になります。多数の卒業生の参加を期待しています。詳細は、静岡大学理学部のHPから理学同窓会にアクセスしてご覧ください。参加申し込みは、理学同窓会事務局で受け付けます。sciain@shizuoka.ac.jp ※会場までのアクセス JR市ヶ谷駅、地下鉄市ヶ谷駅より東へ徒歩約3分

今年から立ち上がる地学同窓会との合同開催になります。多数の卒業生の参加を期待しています。詳細は、静岡大学理学部のHPから理学同窓会にアクセスしてご覧ください。参加申し込みは、理学同窓会事務局で受け付けます。sciain@shizuoka.ac.jp ※会場までのアクセス JR市ヶ谷駅、地下鉄市ヶ谷駅より東へ徒歩約3分



二次会参加者の写真

れ、テーブルを越えて交流が行われ、学科を越えた交流も見られた。懇親会では特に挨拶以外の催しは無くひたすら歓談と食事にふけつた。閉会のあと理学同窓会には有志で2次会の場所、神保町の「なにわ」へ移つた。我々だけの貸しきりで、講演者の道林教授や浅野会長のなど17名が参加。2次会では世代を超えた理学関係者の密な歓談が行われた。3次会は浅野会長、藤岡支部長、長谷川副支部長、岡田誠教授で焼き鳥屋へ行

事、成功裏に終了した。今回は全学部合同開催という事でプログラムはやや変則な形で行なわれたが、世代や学科を超えた交流ができたと思われる。来年度の理学同窓会も同じような時期に開催したいと考えている。また全学同窓会(東京交流会)も3年ごとに実施するのはいいことであるという結論になった。

2017年の理学同窓会 東京支部の総会 日時: 5月27日(土) 17時30分 場所: 私学会館アルカディア(千代田区九段北4)

今年から立ち上がる地学同窓会との合同開催になります。多数の卒業生の参加を期待しています。詳細は、静岡大学理学部のHPから理学同窓会にアクセスしてご覧ください。参加申し込みは、理学同窓会事務局で受け付けます。sciain@shizuoka.ac.jp ※会場までのアクセス JR市ヶ谷駅、地下鉄市ヶ谷駅より東へ徒歩約3分

今年から立ち上がる地学同窓会との合同開催になります。多数の卒業生の参加を期待しています。詳細は、静岡大学理学部のHPから理学同窓会にアクセスしてご覧ください。参加申し込みは、理学同窓会事務局で受け付けます。sciain@shizuoka.ac.jp ※会場までのアクセス JR市ヶ谷駅、地下鉄市ヶ谷駅より東へ徒歩約3分